

## 小規模企業景気動向調査 [2025年10月期調査]

### ～物価高騰に加え、最低賃金引き上げの影響が出始めた小規模企業景況～

#### <産業全体>

10 月期の産業全体の景況は、全 DI がわずかに低下した。ほぼ全ての業種で DI が低下しており、売上額 DI はプラス値を示しているが、最低賃金引き上げやコスト高の影響から、収益性や経営環境の改善には至っていないとの声が散見された。廃業を検討する声も多い中、省力化投資や商品・サービスの付加価値を高める取組が事業継続や持続的成長の鍵になる。

	DI	9 月	10 月	前月比	前年 同月比
売上額		6.7	5.0	▲ 1.7	0.7
採算	▲ 17.0	▲ 18.8	▲ 1.8	▲ 2.2	
資金繰り	▲ 13.2	▲ 15.0	▲ 1.8	▲ 0.9	
業況	▲ 13.8	▲ 14.5	▲ 0.7	▲ 1.3	

#### <製造業(食料品、繊維、機械・金属)>機械・金属が改善も、前月に続き全 DI が悪化した製造業

製造業は資金繰り・業況 DI が小幅に低下、売上額・採算はわずかに低下した。8 月期からの連続改善に反し全 DI が低下した。食料品及び繊維について全 DI が低下したが、機械・金属については、一部地域では半導体需要が追い風となり、資金繰りを除く 3 つの DI で改善を示した。一方で、人手不足や設備の老朽化への対応が進まず商機を逸しているとの声もあり、積極的な設備投資や人手不足対策による経営体制の改善が求められる。

	DI	9 月	10 月	前月比	前年 同月比
売上額		8.0	6.7	▲ 1.3	2.7
採算	▲ 19.1	▲ 20.2	▲ 1.1	▲ 0.6	
資金繰り	▲ 14.7	▲ 17.1	▲ 2.4	▲ 0.7	
業況	▲ 15.3	▲ 17.3	▲ 2.0	▲ 1.5	

#### <建設業>長引くコスト増や受注減により、売り手・買い手ともに資金繰りに苦しむ建設業

建設業は、資金繰り DI が大幅に低下、採算・業況 DI はわずかに低下し、売上額 DI は不変となった。物価高や外注費が高騰する中、特に最低賃金改定に伴う労務費の価格転嫁が進まず、採算や資金繰りにについても厳しさを増している。また、コスト高に伴い販売額が高額になることで、顧客がローンを組めないとの声も寄せられた。発注者からの依頼減少により、廃業を検討する声もあり、業界全体で停滞感が漂っている。

	DI	9 月	10 月	前月比	前年 同月比
売上額		9.7	9.3	▲ 0.4	▲ 2.0
採算	▲ 16.6	▲ 17.2	▲ 0.6	▲ 4.0	
資金繰り	▲ 11.2	▲ 16.5	▲ 5.3	▲ 4.6	
業況	▲ 11.0	▲ 11.6	▲ 0.6	▲ 1.7	

#### <小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)>季節需要で衣料品がけん引も、価格転嫁が急がれる小売業

小売業は、売上額・採算 DI が小幅に低下、資金繰り・業況 DI は不変となった。衣料品では全 DI が上昇した。物価高騰による採算の悪化や買い控えを訴える声が散見されたが、気温の低下や季節の進行等により冬物需要が高まったことが要因とみられる。食料品についても一定の需要等から前年ベースでは全 DI が上昇したが、仕入価格や人件費、光熱費の上昇に価格転嫁が追い付いておらず、引き続き動向に注視する必要がある。

	DI	9 月	10 月	前月比	前年 同月比
売上額		3.1	1.0	▲ 2.1	3.4
採算	▲ 20.5	▲ 22.5	▲ 2.0	0.0	
資金繰り	▲ 16.5	▲ 16.3	0.2	2.6	
業況	▲ 19.7	▲ 19.8	▲ 0.1	0.4	

#### <サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)>節約志向による来店頻度低下が収益を圧迫するサービス業

サービス業は、売上額・採算 DI が小幅に低下、資金繰り・業況 DI は不変となった。旅館業では、9 月期に続き前月比・前年同月比ともに全 DI が低下。特に採算 DI は 10 ポイント弱低下しており、コスト増等による経営悪化に苦しむ声が散見された。また、北日本を中心に熊の出没情報が相次ぎ、イベント中止や宿泊キャンセル等の影響により来客数が減少している。理・美容業については、来店頻度の減少や物価高騰を指摘する声が散見された。

	DI	9 月	10 月	前月比	前年 同月比
売上額		5.7	3.0	▲ 2.7	▲ 1.2
採算	▲ 11.8	▲ 15.1	▲ 3.3	▲ 4.0	
資金繰り	▲ 10.5	▲ 10.4	0.1	▲ 1.1	
業況	▲ 9.0	▲ 9.3	▲ 0.3	▲ 2.3	

#### 調査概要

- ・調査対象: 全国 303 商工会の経営指導員(有効回答数:238/回答率 78.5%)
- ・調査時点: 2025 年 10 月末
- ・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式
- ※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

The chart displays the Nikkei 225 index from 2005 to 2025. The x-axis represents time in months, and the y-axis represents the index value. The chart highlights several major market events and their corresponding index values:

- 2008年9月 リーマンショック (-67.9)
- 2011年3月 東日本大震災 (-50.3)
- 2014年4月 消費税5%→8% (-24.2)
- 2020年 新型コロナ拡大 (-82.5)
- 2025年 新型コロナ収束 (-14.5)

The chart also marks the historical high of 0.1 in 2014 and the historical low of -82.5 in 2020.

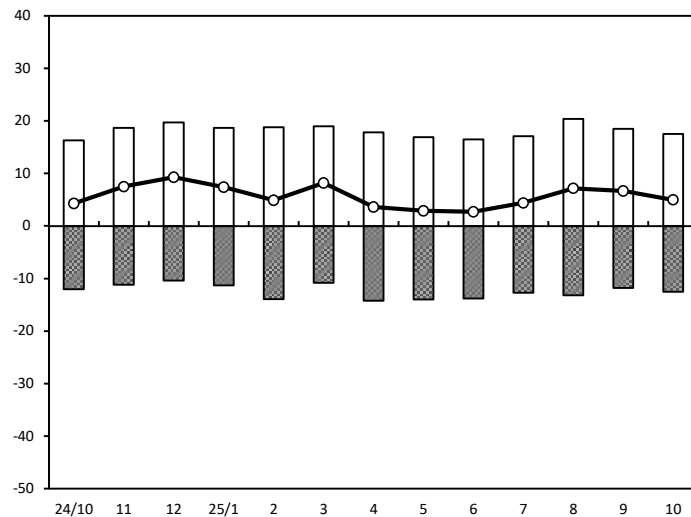
The chart displays the monthly trend of the 'China's Economic Outlook' index. The x-axis represents time from October 2024 to October 2025. The y-axis represents the index value, ranging from -20.0 to 0.0. The index starts at -13.2 in October 2024, peaks at approximately -11.0 in November 2024, and then generally declines, reaching a low of approximately -17.5 in April 2025, before ending at -14.5 in October 2025.

Month	Index Value
2024年 10月	-13.2
2024年 11月	-11.0
2024年 12月	-12.5
2025年 1月	-12.5
2025年 2月	-16.5
2025年 3月	-12.5
2025年 4月	-17.5
2025年 5月	-17.0
2025年 6月	-15.5
2025年 7月	-14.5
2025年 8月	-13.0
2025年 9月	-13.5
2025年 10月	-14.5

# 小規模企業景気動向調査(2025年10月期)

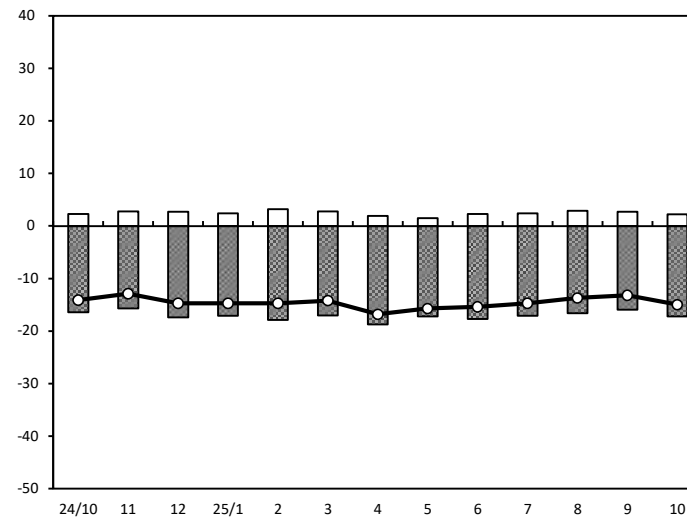
産業全体(前年同月比)

## 売上額



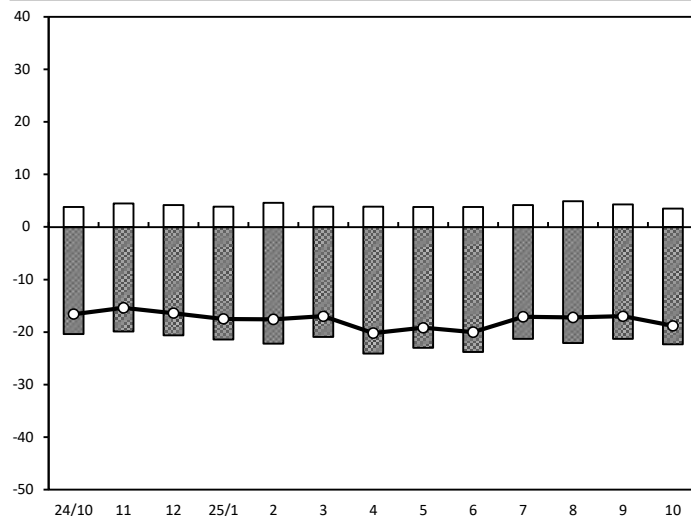
(年月)

## 資金繰り



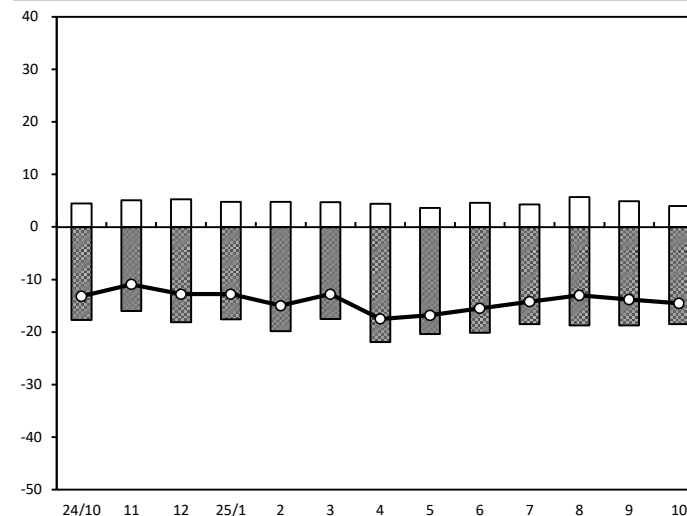
(年月)

## 採算



(年月)

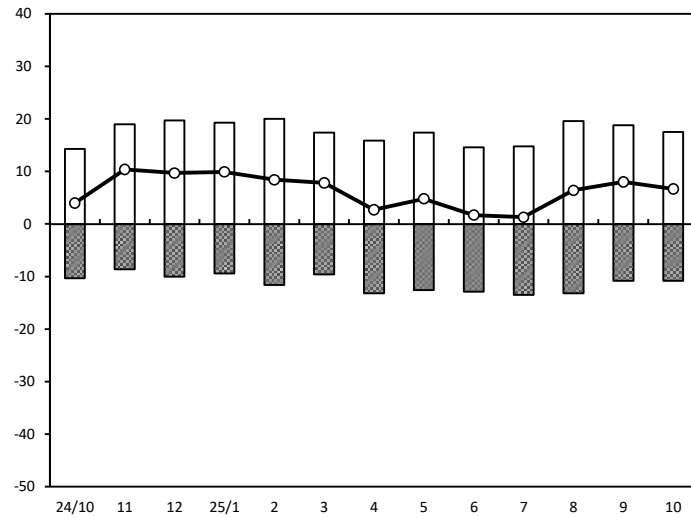
## 業界の業況



(年月)

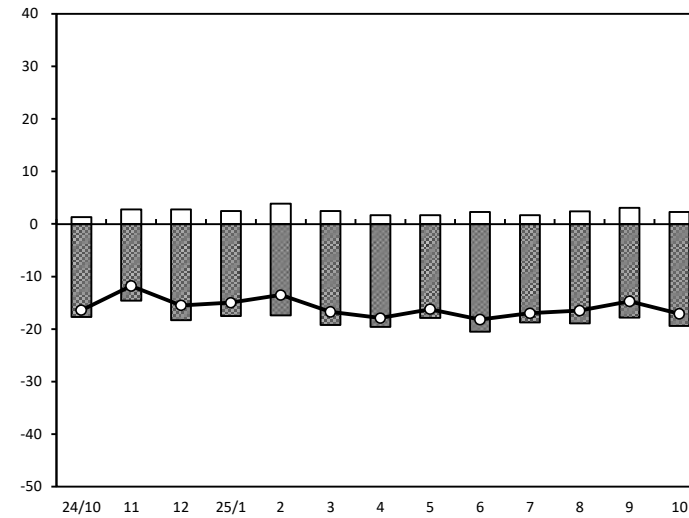
## 製 造 業(前年同月比)

売上額



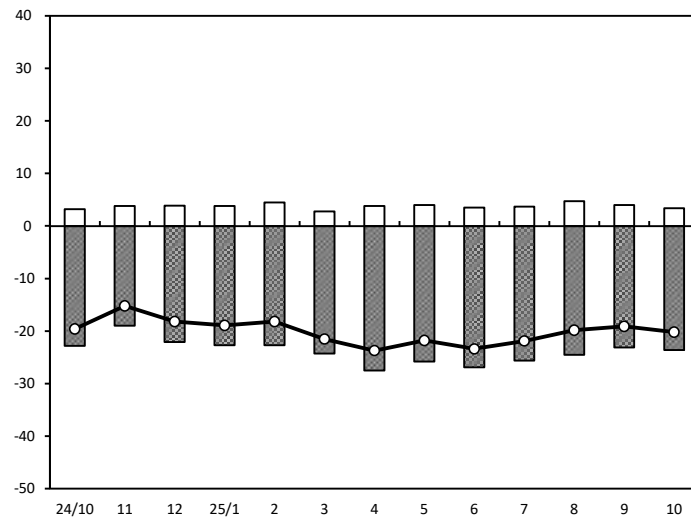
(年月)

資金繰り



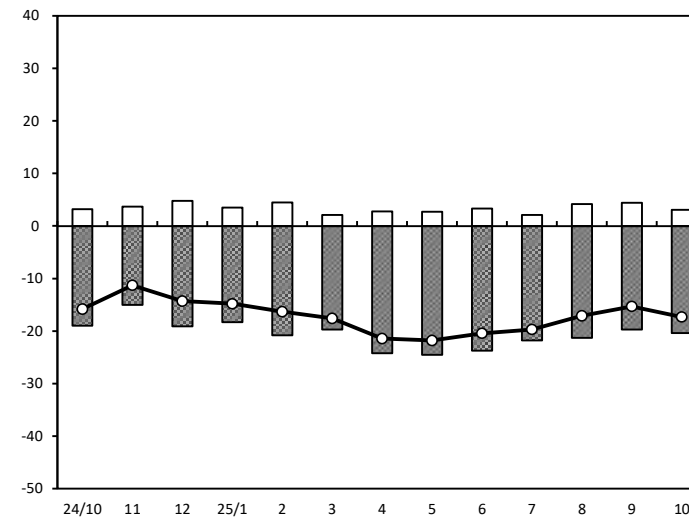
(年月)

採算



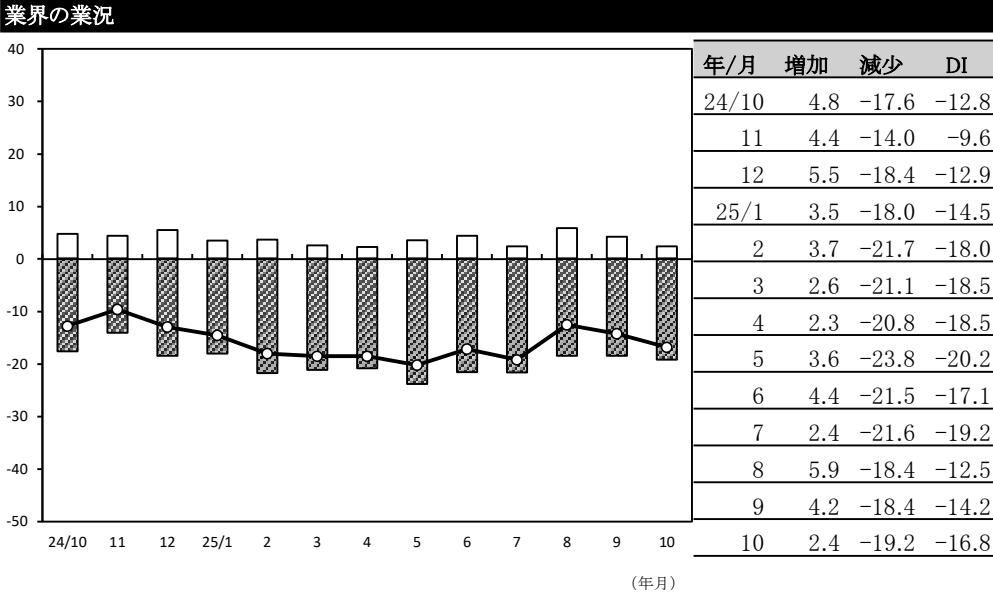
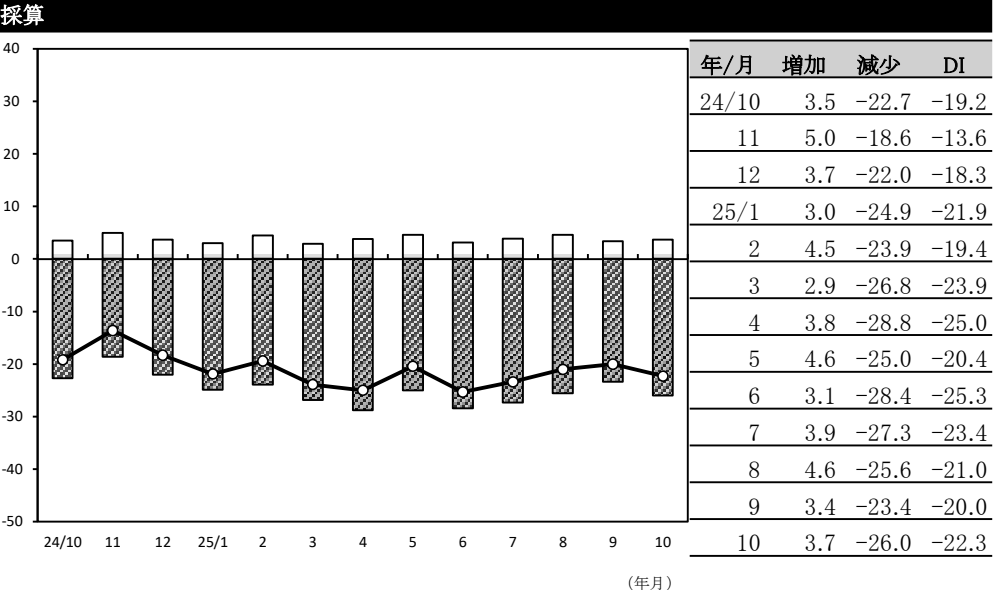
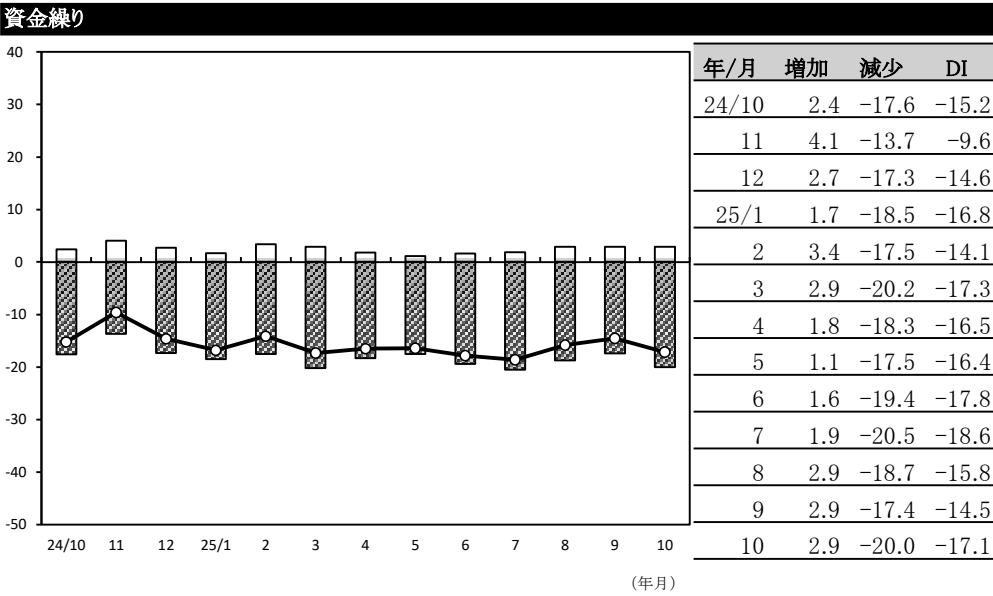
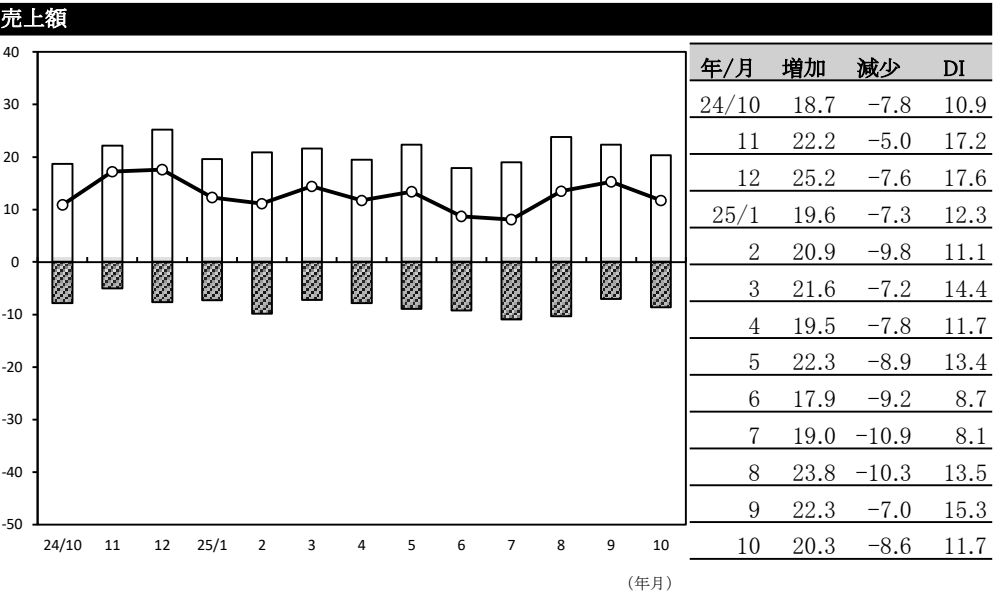
(年月)

業界の業況



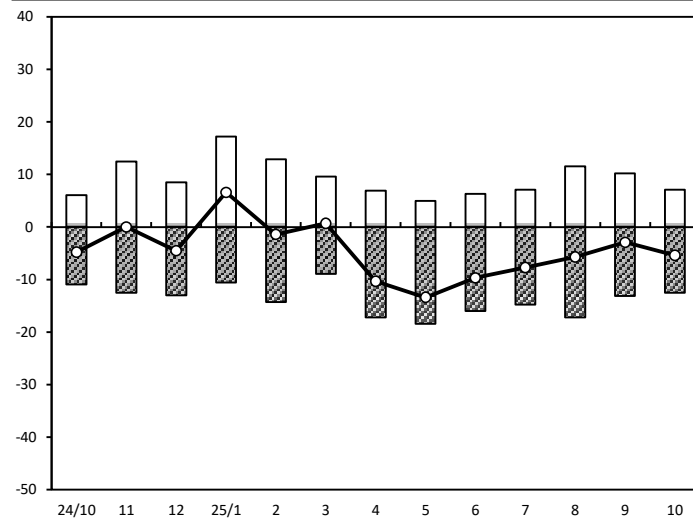
(年月)

製 造 業【食料品】（前年同月比）



## 製 造 業【繊維】（前年同月比）

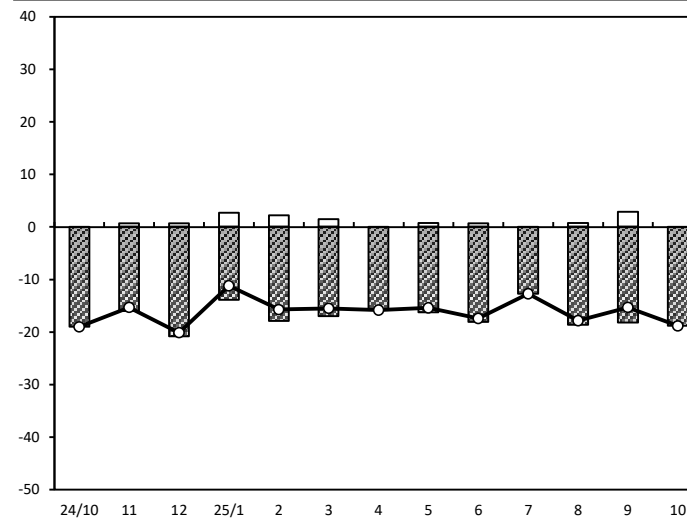
売上額



(年月)

年/月	増加	減少	DI
24/10	6.1	-10.9	-4.8
11	12.5	-12.5	0.0
12	8.5	-13.0	-4.5
25/1	17.2	-10.6	6.6
2	12.9	-14.3	-1.4
3	9.6	-8.9	0.7
4	6.9	-17.2	-10.3
5	5.0	-18.4	-13.4
6	6.3	-16.0	-9.7
7	7.1	-14.8	-7.7
8	11.5	-17.2	-5.7
9	10.2	-13.1	-2.9
10	7.1	-12.5	-5.4

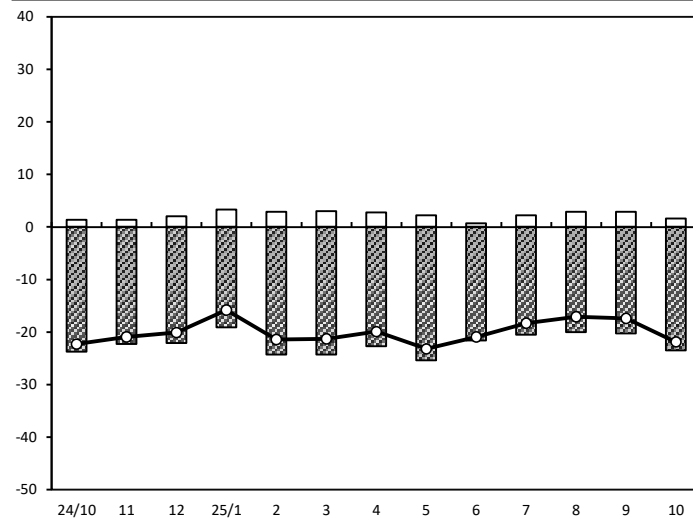
資金繰り



(年月)

年/月	増加	減少	DI
24/10	0.0	-19.0	-19.0
11	0.7	-16.0	-15.3
12	0.7	-20.8	-20.1
25/1	2.7	-13.9	-11.2
2	2.2	-17.9	-15.7
3	1.5	-17.0	-15.5
4	0.0	-15.8	-15.8
5	0.8	-16.2	-15.4
6	0.7	-18.1	-17.4
7	0.0	-12.7	-12.7
8	0.8	-18.6	-17.8
9	2.9	-18.2	-15.3
10	0.0	-18.8	-18.8

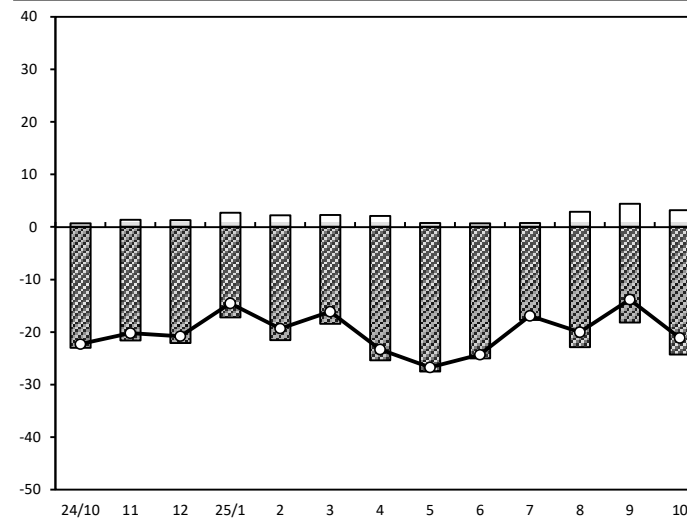
採算



(年月)

年/月	増加	減少	DI
24/10	1.4	-23.7	-22.3
11	1.4	-22.3	-20.9
12	2.0	-22.1	-20.1
25/1	3.3	-19.1	-15.8
2	2.9	-24.3	-21.4
3	3.0	-24.3	-21.3
4	2.8	-22.7	-19.9
5	2.2	-25.4	-23.2
6	0.7	-21.6	-20.9
7	2.2	-20.5	-18.3
8	2.9	-20.0	-17.1
9	2.9	-20.3	-17.4
10	1.6	-23.5	-21.9

業界の業況

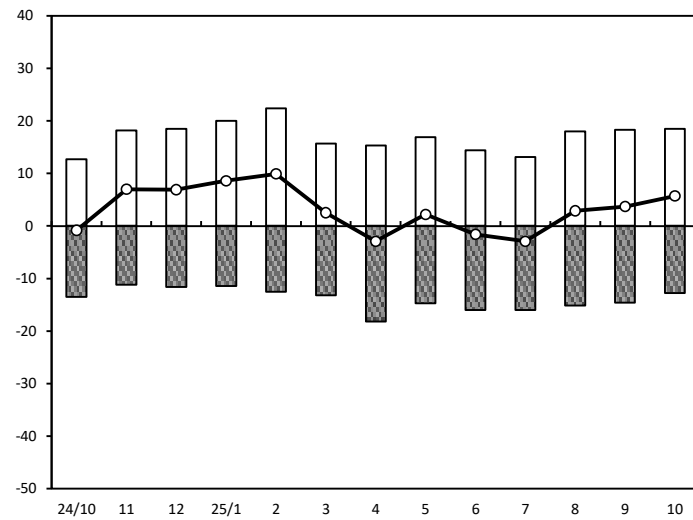


(年月)

年/月	増加	減少	DI
24/10	0.7	-23.0	-22.3
11	1.4	-21.6	-20.2
12	1.3	-22.1	-20.8
25/1	2.7	-17.2	-14.5
2	2.2	-21.5	-19.3
3	2.3	-18.4	-16.1
4	2.1	-25.4	-23.3
5	0.8	-27.5	-26.7
6	0.7	-25.0	-24.3
7	0.8	-17.7	-16.9
8	2.9	-22.9	-20.0
9	4.4	-18.2	-13.8
10	3.2	-24.3	-21.1

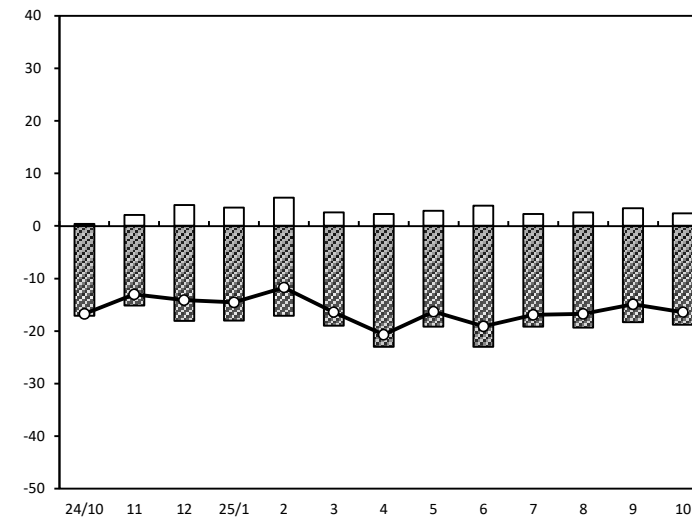
# 製 造 業【機械・金属】（前年同月比）

売上額



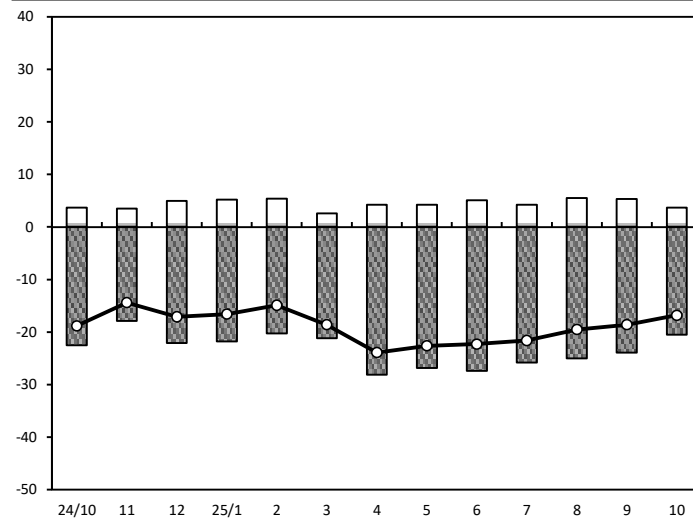
(年月)

資金繰り



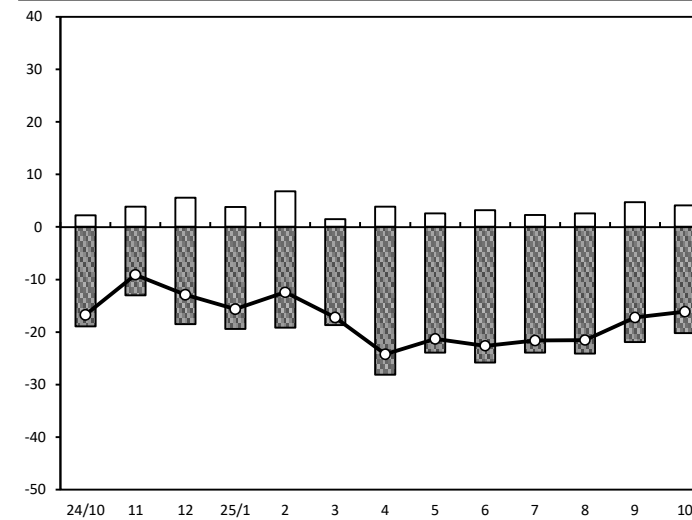
(年月)

採算



(年月)

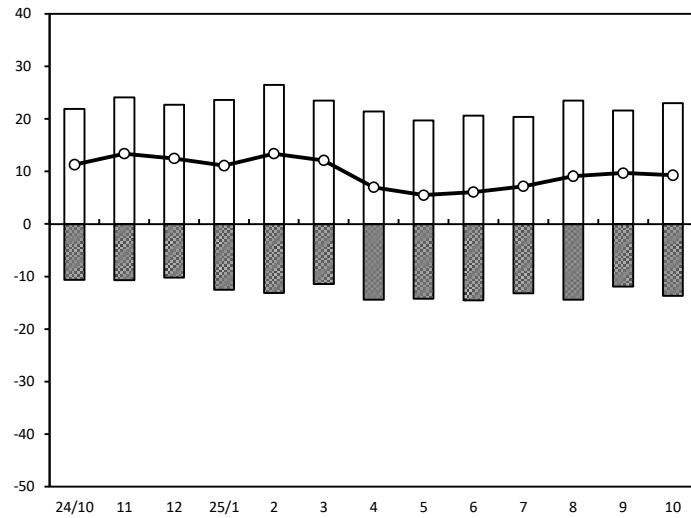
業界の業況



(年月)

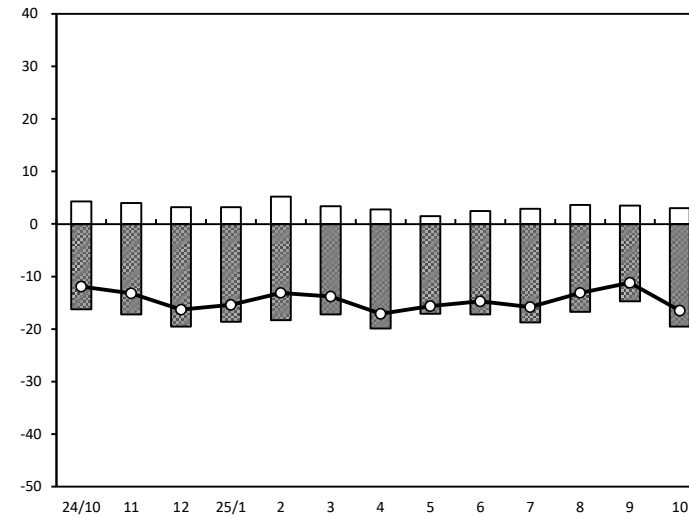
## 建設業(前年同月比)

売上額



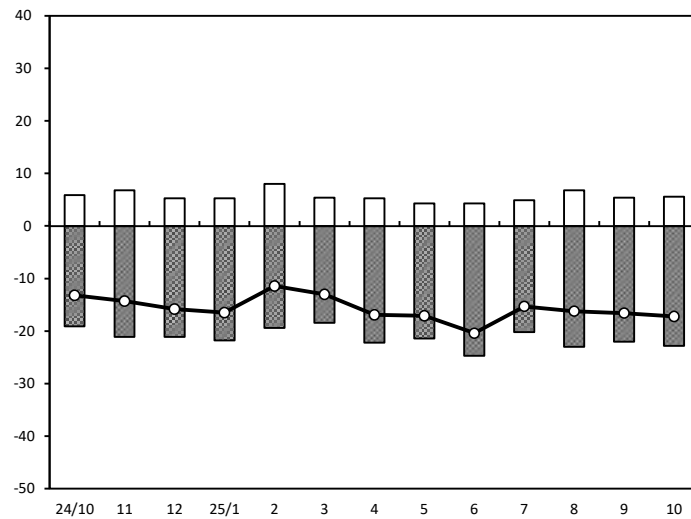
(年月)

資金繰り



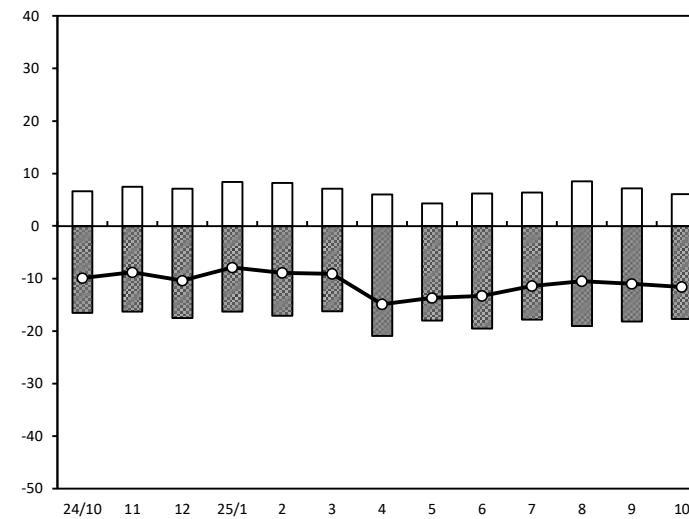
(年月)

採算



(年月)

業界の業況

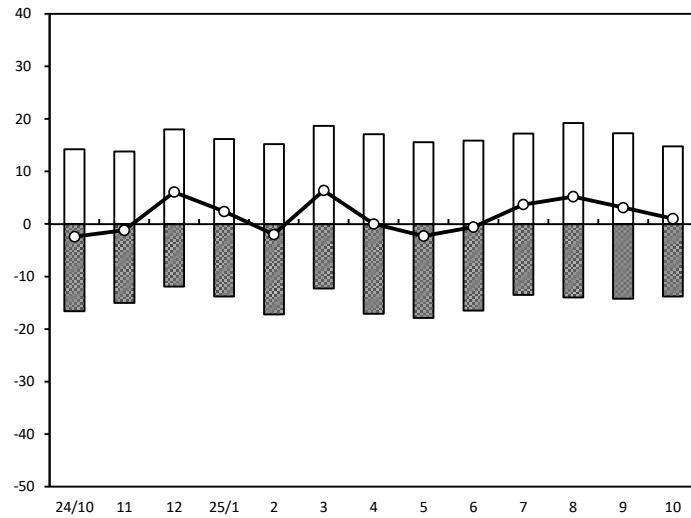


(年月)



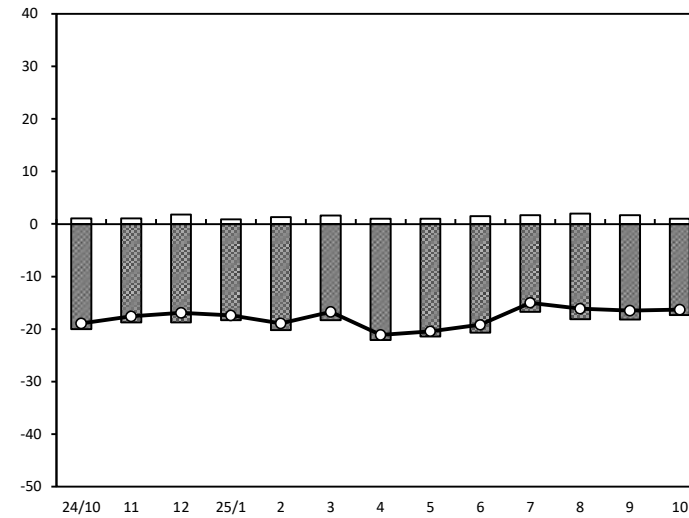
## 小 売 業(前年同月比)

売上額



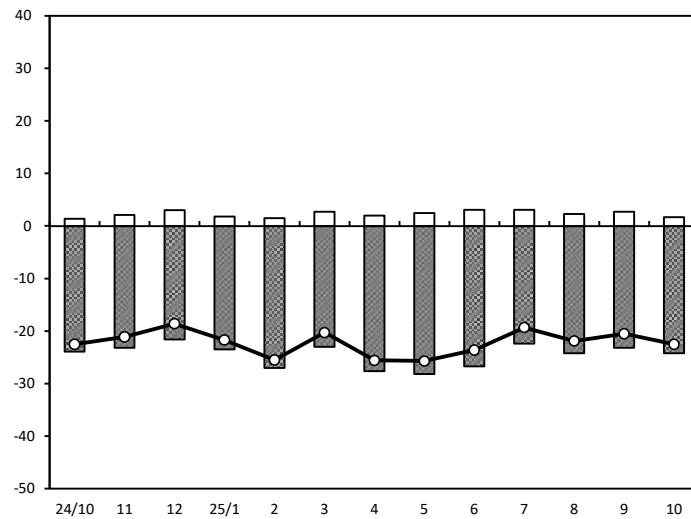
(年月)

資金繰り



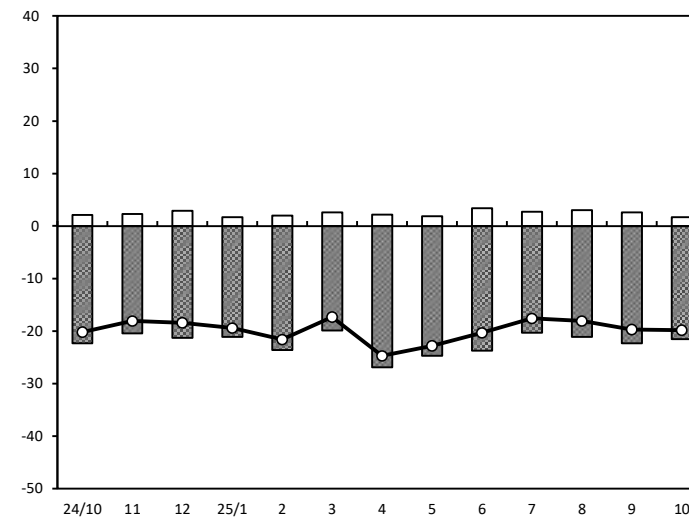
(年月)

採算



(年月)

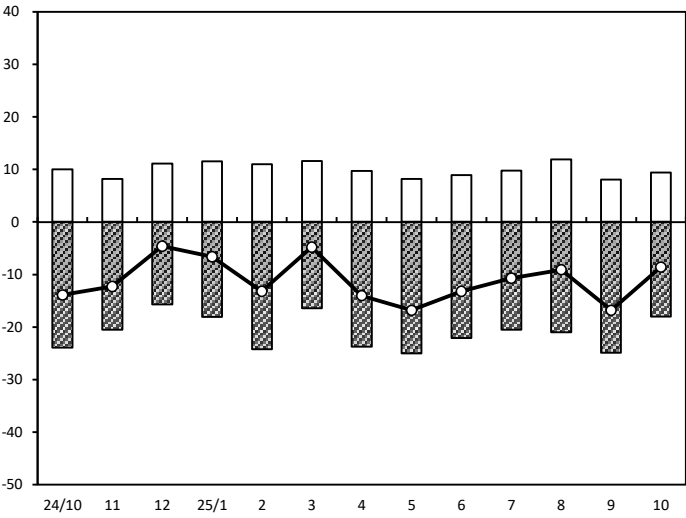
業界の業況



(年月)

小 売 業【衣料品】（前年同月比）

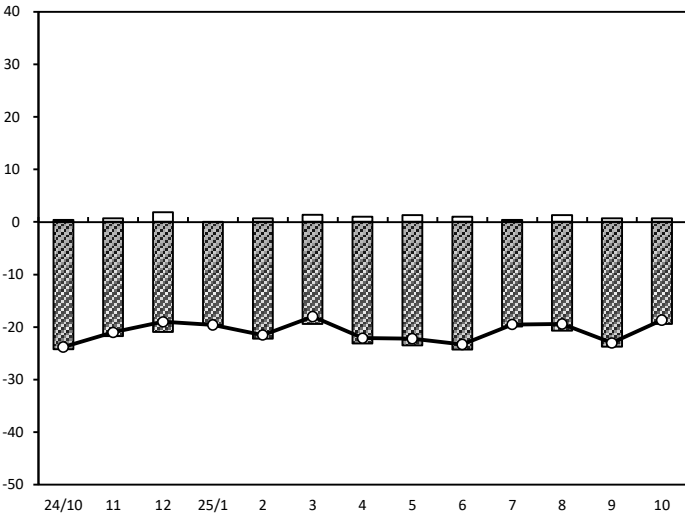
売上額



年/月	増加	減少	DI
24/10	10.0	-23.9	-13.9
11	8.2	-20.5	-12.3
12	11.1	-15.7	-4.6
25/1	11.5	-18.1	-6.6
2	11.0	-24.2	-13.2
3	11.6	-16.4	-4.8
4	9.7	-23.7	-14.0
5	8.2	-25.0	-16.8
6	8.9	-22.1	-13.2
7	9.8	-20.5	-10.7
8	11.9	-21.0	-9.1
9	8.1	-24.9	-16.8
10	9.4	-18.0	-8.6

(年月)

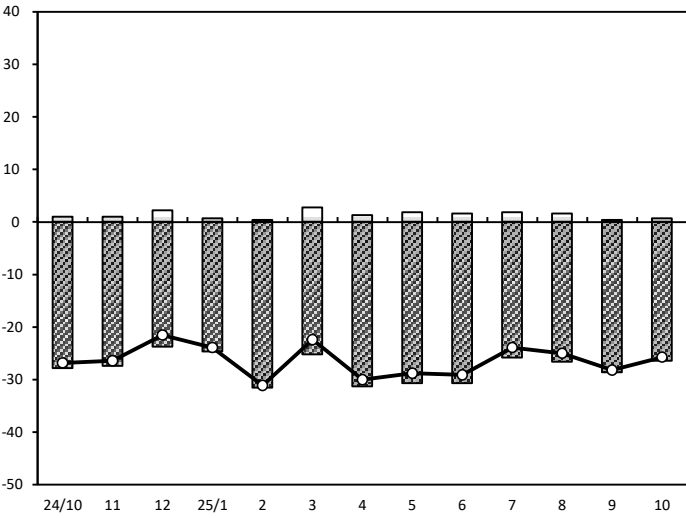
資金繰り



年/月	増加	減少	DI
24/10	0.4	-24.2	-23.8
11	0.7	-21.7	-21.0
12	1.9	-20.9	-19.0
25/1	0.0	-19.6	-19.6
2	0.7	-22.2	-21.5
3	1.4	-19.4	-18.0
4	1.0	-23.1	-22.1
5	1.3	-23.5	-22.2
6	1.0	-24.3	-23.3
7	0.4	-19.9	-19.5
8	1.3	-20.7	-19.4
9	0.7	-23.7	-23.0
10	0.7	-19.4	-18.7

(年月)

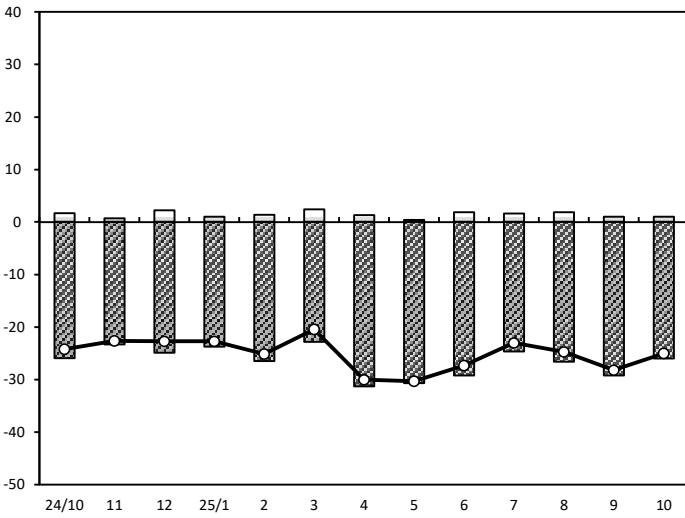
採算



年/月	増加	減少	DI
24/10	1.0	-27.8	-26.8
11	1.0	-27.4	-26.4
12	2.2	-23.7	-21.5
25/1	0.7	-24.6	-23.9
2	0.4	-31.5	-31.1
3	2.8	-25.2	-22.4
4	1.3	-31.3	-30.0
5	1.9	-30.7	-28.8
6	1.6	-30.7	-29.1
7	1.9	-25.8	-23.9
8	1.6	-26.6	-25.0
9	0.4	-28.6	-28.2
10	0.7	-26.4	-25.7

(年月)

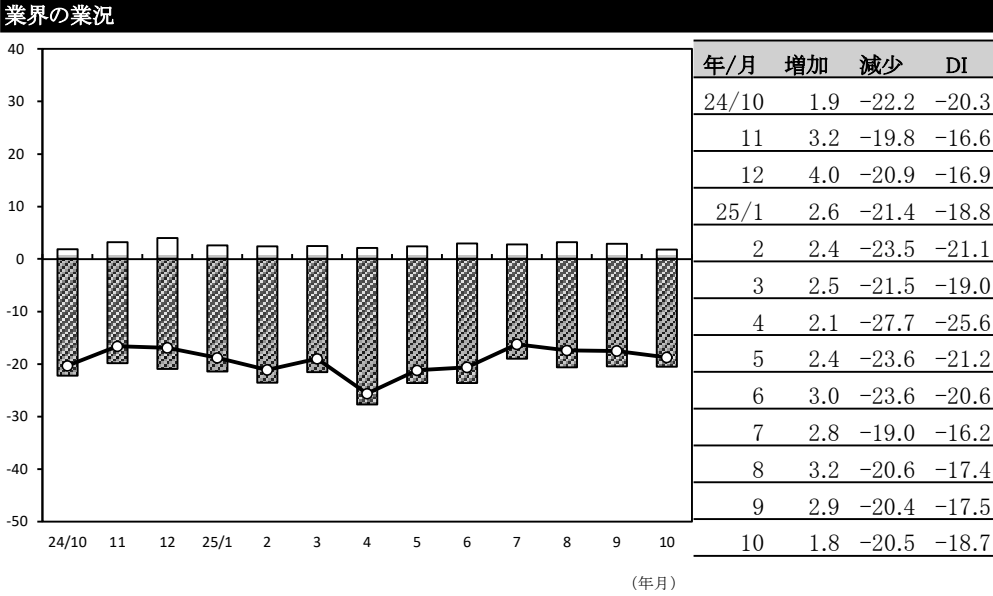
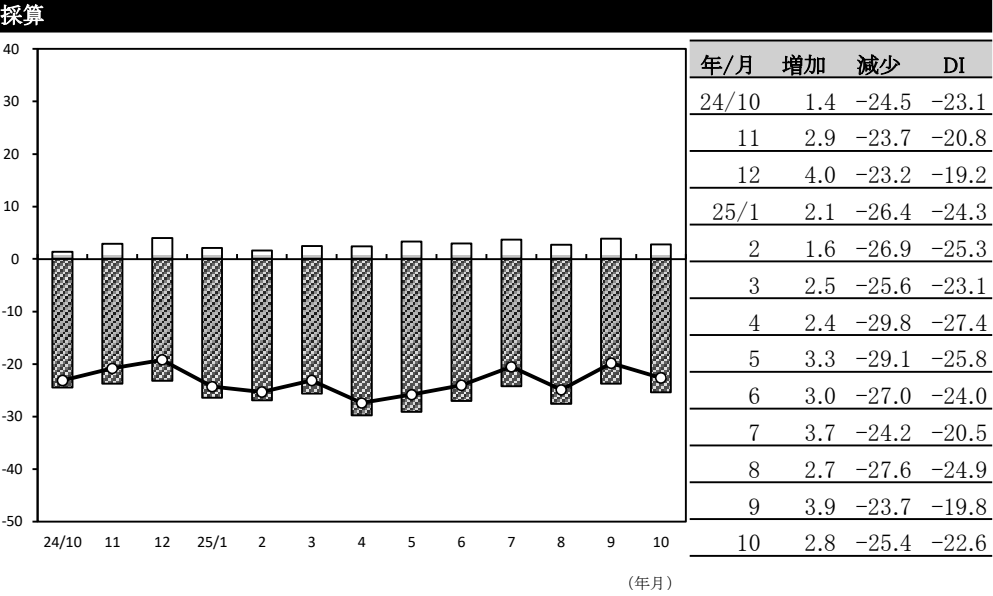
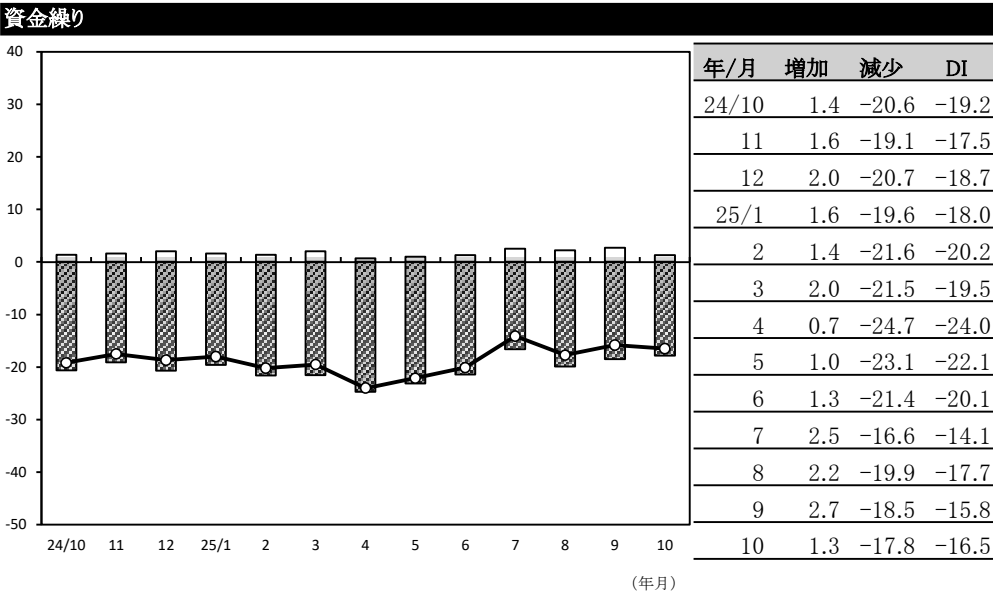
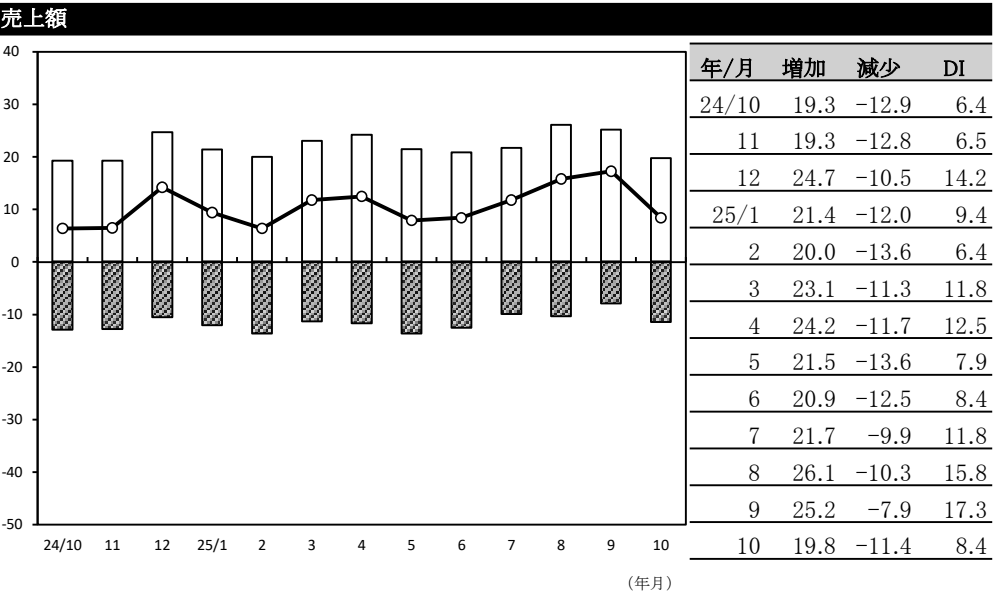
業界の業況



年/月	増加	減少	DI
24/10	1.7	-25.9	-24.2
11	0.7	-23.3	-22.6
12	2.2	-24.9	-22.7
25/1	1.0	-23.7	-22.7
2	1.4	-26.5	-25.1
3	2.4	-22.8	-20.4
4	1.3	-31.3	-30.0
5	0.4	-30.7	-30.3
6	1.9	-29.2	-27.3
7	1.6	-24.6	-23.0
8	1.9	-26.6	-24.7
9	1.0	-29.2	-28.2
10	1.0	-26.0	-25.0

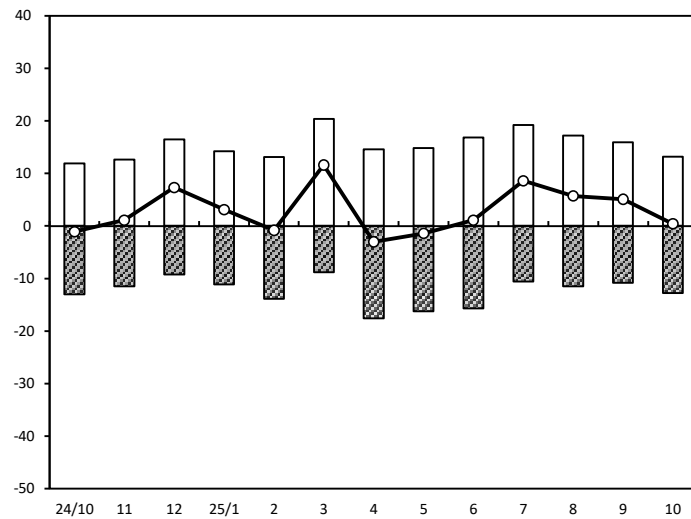
(年月)

# 小 売 業【食料品】（前年同月比）



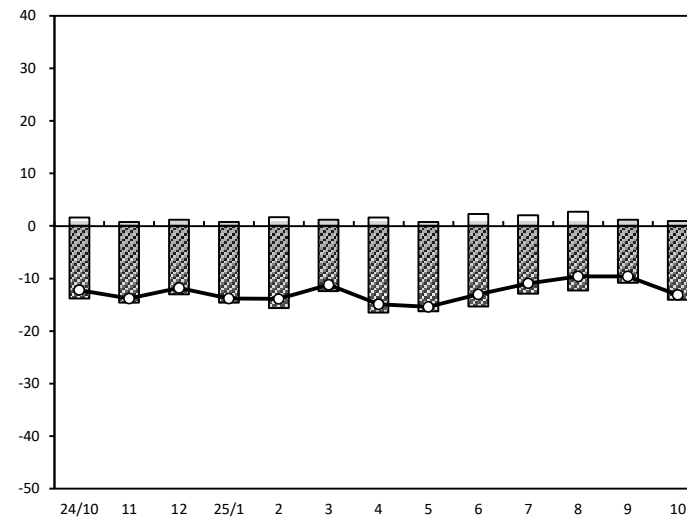
## 小 売 業【耐久消費財】（前年同月比）

売上額



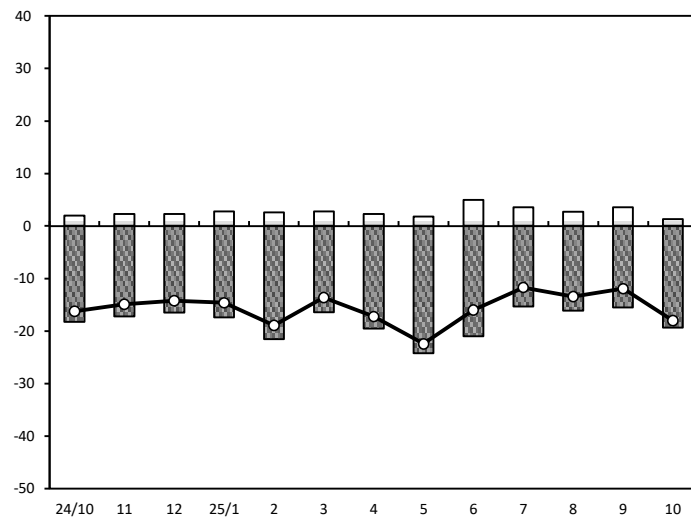
(年月)

資金繰り



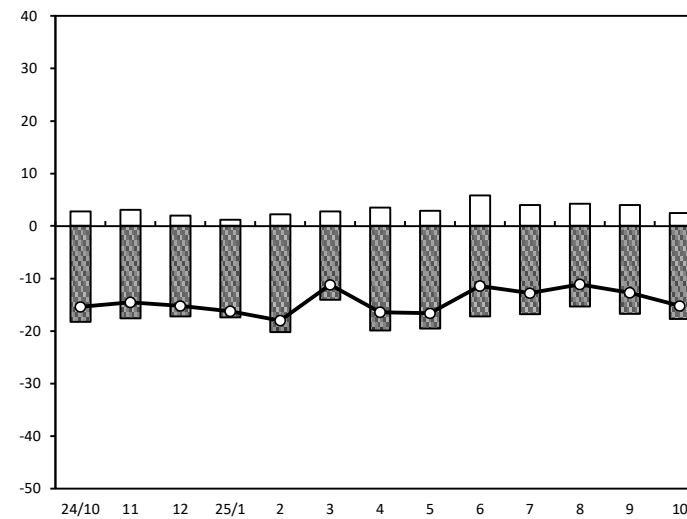
(年月)

採算



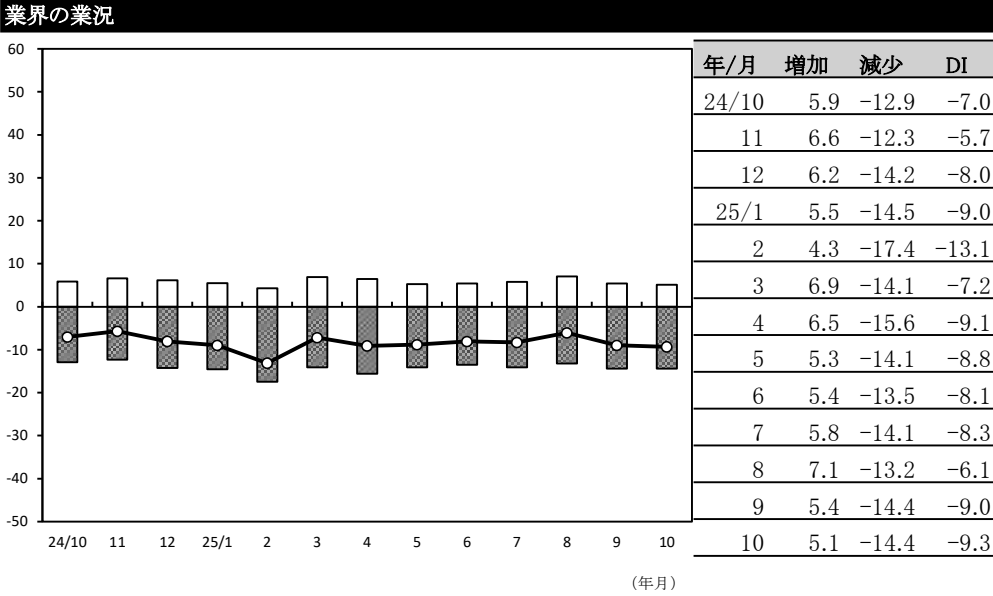
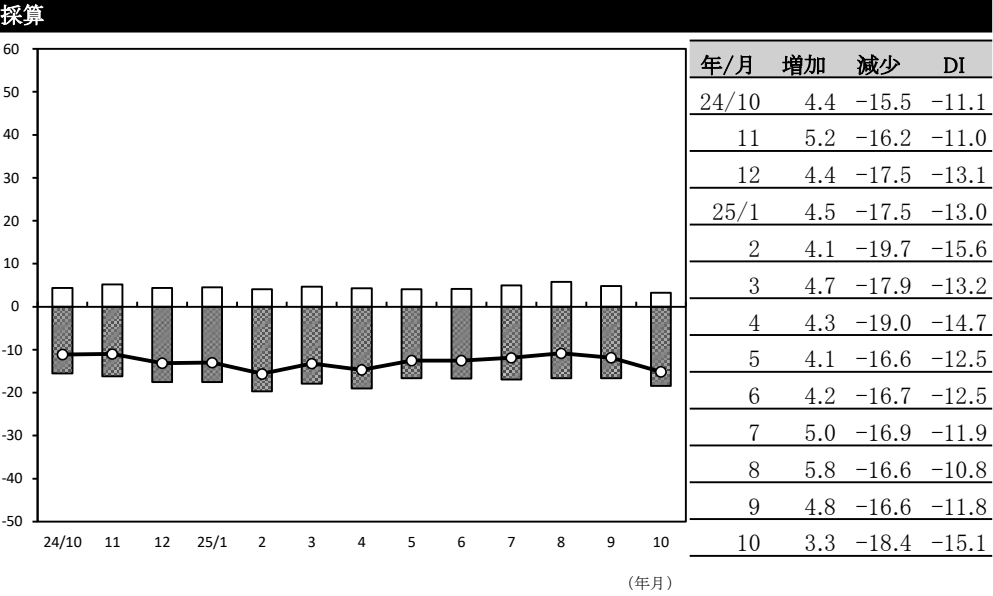
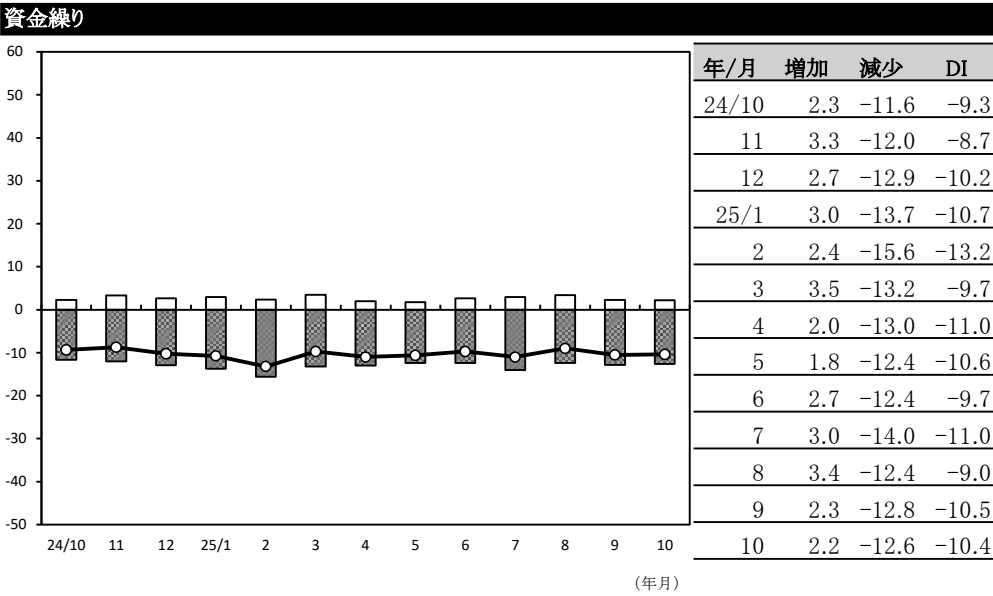
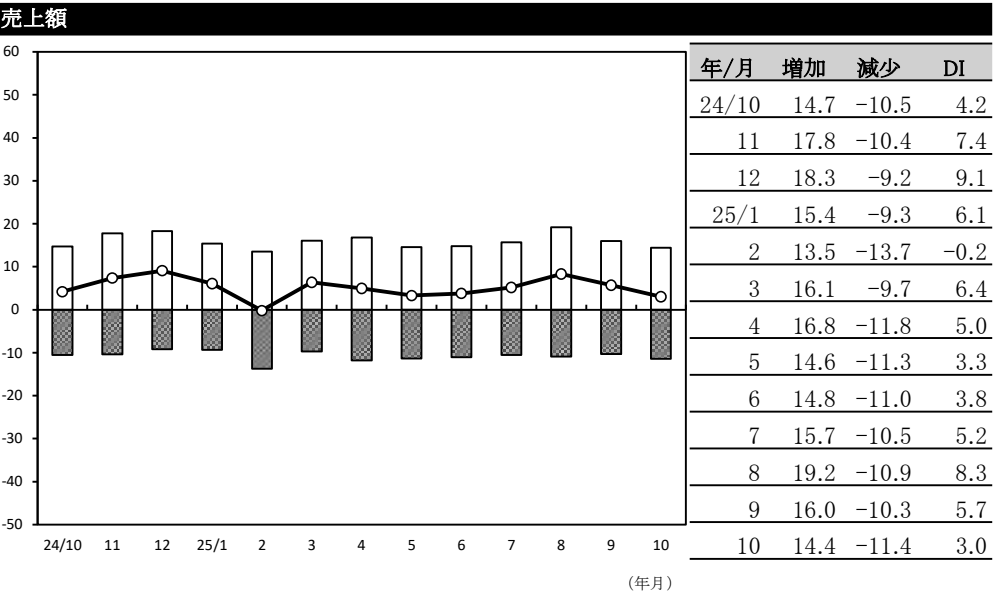
(年月)

業界の業況



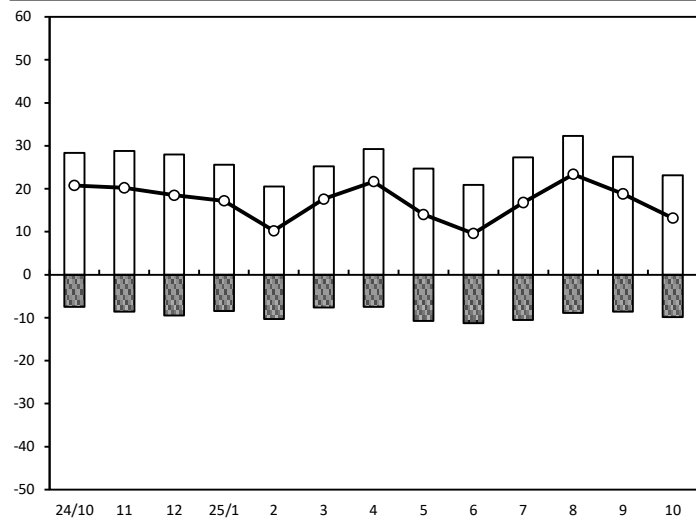
(年月)

サービス業(前年同月比)



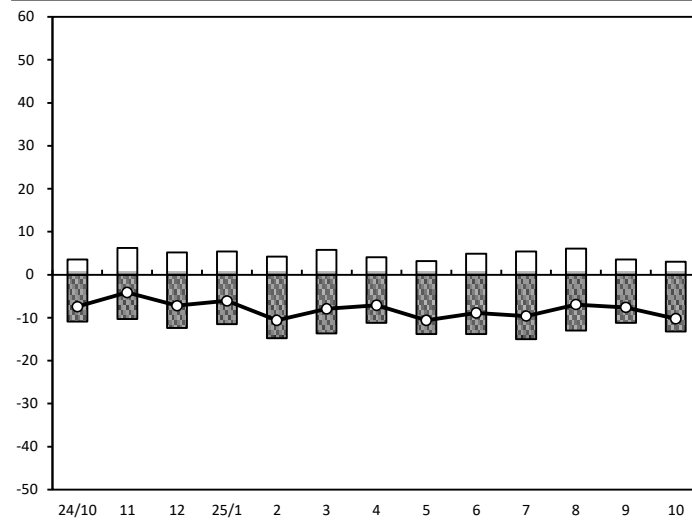
## サービス業【旅館】（前年同月比）

### 売上額



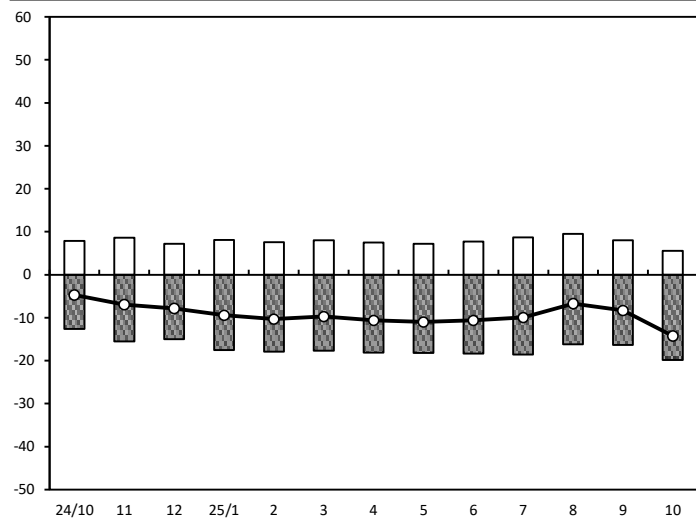
(年月)

### 資金繰り



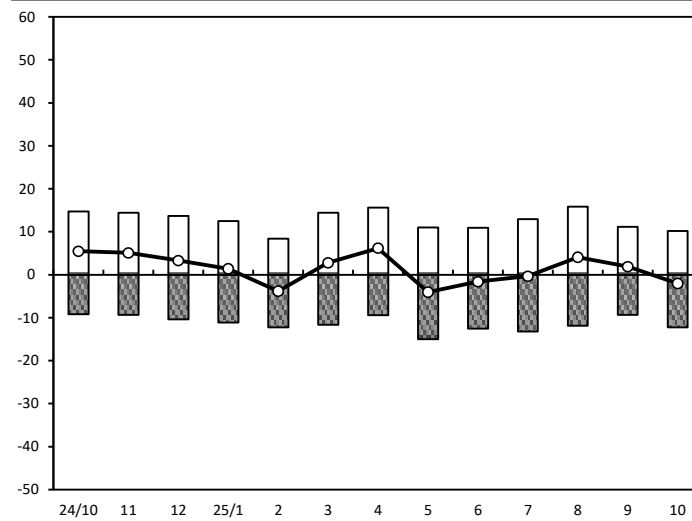
(年月)

### 採算



(年月)

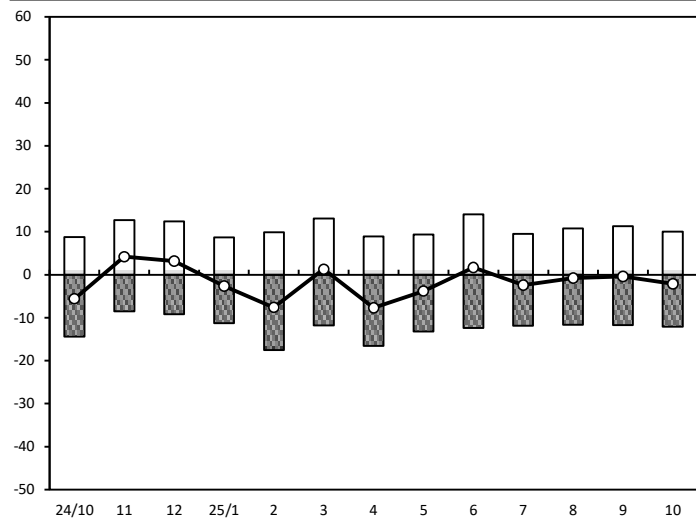
### 業界の業況



(年月)

## サービス業【クリーニング】（前年同月比）

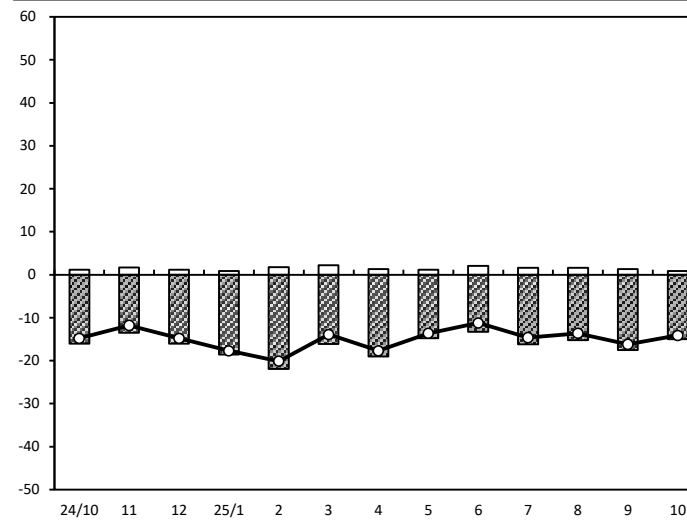
### 売上額



年/月	増加	減少	DI
24/10	8.8	-14.4	-5.6
11	12.7	-8.5	4.2
12	12.4	-9.2	3.2
25/1	8.7	-11.3	-2.6
2	9.9	-17.5	-7.6
3	13.1	-11.8	1.3
4	8.9	-16.6	-7.7
5	9.4	-13.2	-3.8
6	14.1	-12.4	1.7
7	9.5	-11.9	-2.4
8	10.8	-11.6	-0.8
9	11.3	-11.7	-0.4
10	10.0	-12.1	-2.1

（年月）

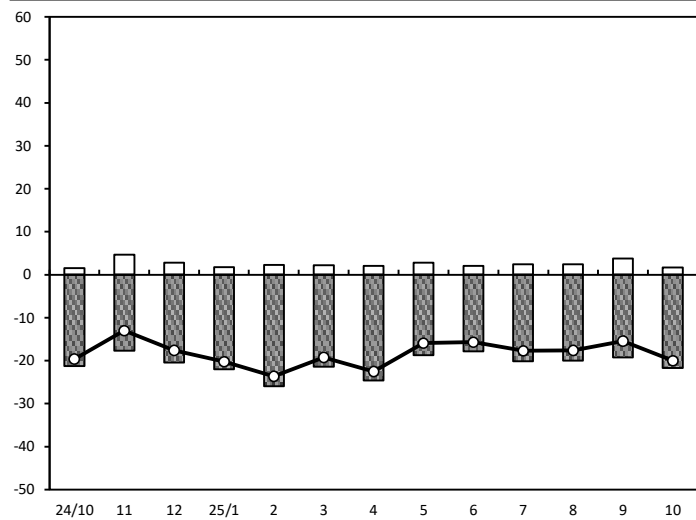
### 資金繰り



年/月	増加	減少	DI
24/10	1.2	-16.0	-14.8
11	1.7	-13.5	-11.8
12	1.2	-16.0	-14.8
25/1	0.9	-18.6	-17.7
2	1.8	-21.9	-20.1
3	2.2	-16.1	-13.9
4	1.3	-19.0	-17.7
5	1.2	-14.8	-13.6
6	2.1	-13.3	-11.2
7	1.6	-16.2	-14.6
8	1.6	-15.2	-13.6
9	1.3	-17.5	-16.2
10	0.9	-15.0	-14.1

（年月）

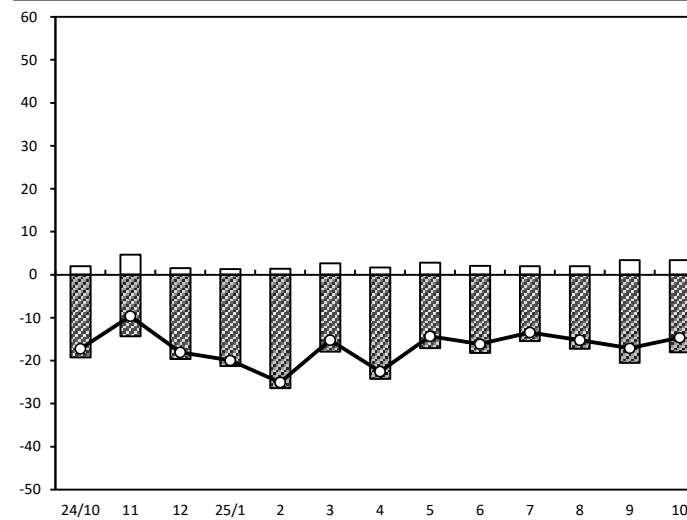
### 採算



年/月	増加	減少	DI
24/10	1.6	-21.2	-19.6
11	4.7	-17.7	-13.0
12	2.8	-20.4	-17.6
25/1	1.8	-22.0	-20.2
2	2.3	-25.9	-23.6
3	2.2	-21.4	-19.2
4	2.1	-24.6	-22.5
5	2.8	-18.7	-15.9
6	2.1	-17.8	-15.7
7	2.4	-20.1	-17.7
8	2.4	-20.0	-17.6
9	3.8	-19.2	-15.4
10	1.7	-21.7	-20.0

（年月）

### 業界の業況

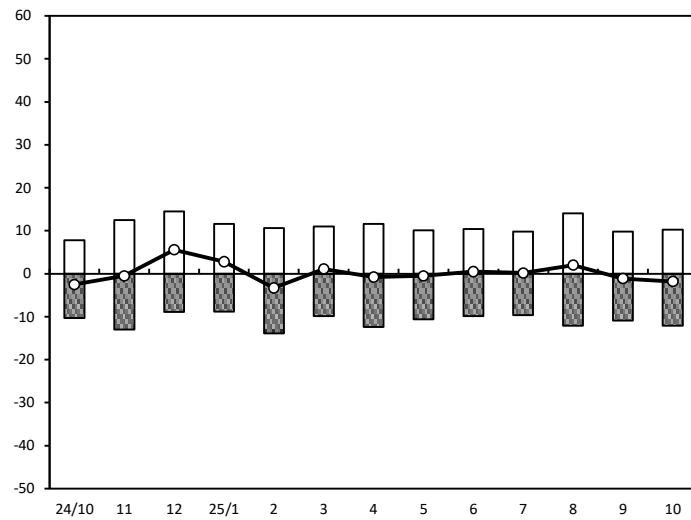


年/月	増加	減少	DI
24/10	2.0	-19.2	-17.2
11	4.7	-14.3	-9.6
12	1.6	-19.6	-18.0
25/1	1.3	-21.2	-19.9
2	1.4	-26.4	-25.0
3	2.7	-17.9	-15.2
4	1.7	-24.2	-22.5
5	2.8	-17.1	-14.3
6	2.1	-18.2	-16.1
7	2.0	-15.4	-13.4
8	2.0	-17.2	-15.2
9	3.4	-20.5	-17.1
10	3.4	-18.0	-14.6

（年月）

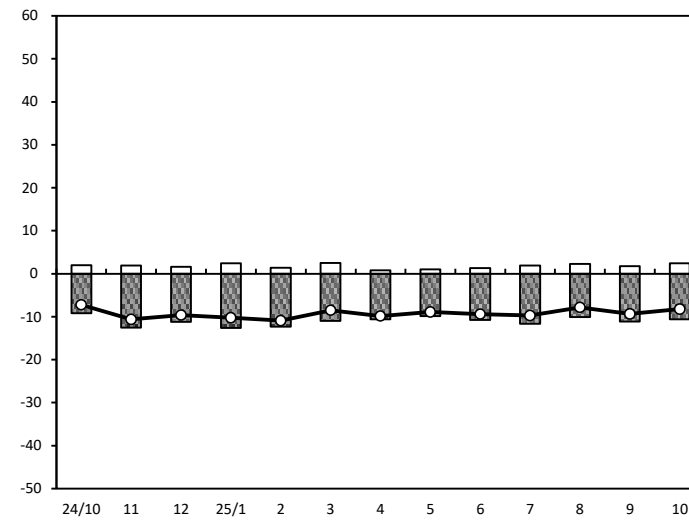
## サービス業【理・美容】（前年同月比）

売上額



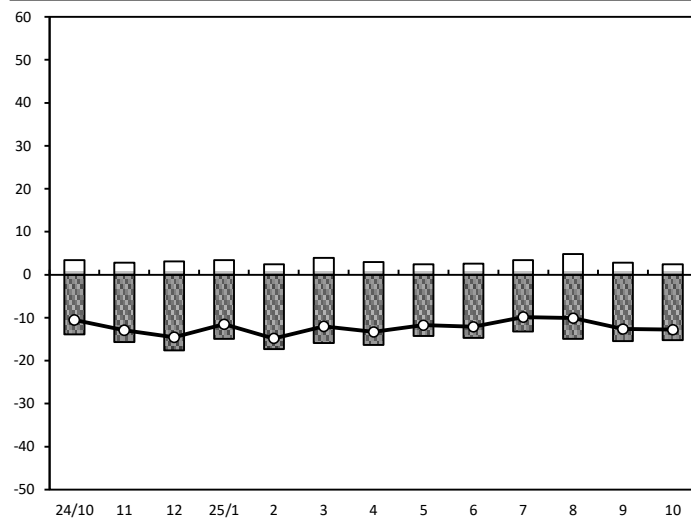
(年月)

資金繰り



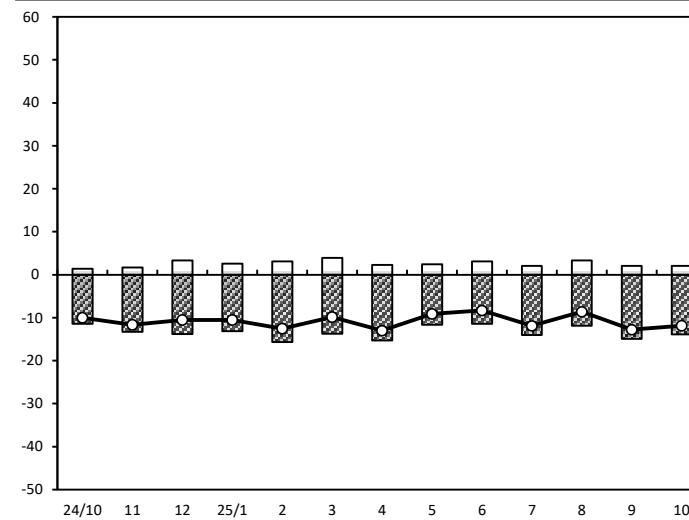
(年月)

採算



(年月)

業界の業況



(年月)



## 小規模企業景気動向調査(10月期)における商工会経営指導員の主なコメント

\*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

### 1. 景気全般

#### <改善傾向を示すコメント>

当地県内有数の観光地であり、秋の観光シーズン真っただ中で県内外、インバウンドの交流人口が増加しており関連する業種は好況である。

(秋田県仙北市商工会 田沢湖支所)

人件費増加に伴い、効率化重視傾向。全業種にワークライフバランス重視の稼働時間調整等すみ、経営の効率化が行われている。価格上昇に伴い、売上高も増加傾向。コスト重視、推し活需要目線での消費者が増えており、取引先、消費者に対して価値を感じられる商材については価格引き上げにも動かない。「コスト<便益」は消費者毎違いはあれど、うまくマッチした商材には適正価格を支払い購買に至っているような感じを受ける。逆に、価格を上げたことで「便益<コスト」、便益を上回る対コストと感じられた商材については、価格改定と共に売上低迷傾向。

(山形県南陽市商工会)

建設業では、工事の進捗状況や人員配置をタブレット上で一元管理し、現場と事務所間の情報共有を効率化する取り組みが進められている。これにより、人手不足への対応や生産性の向上、働き方の見直しなど、経営基盤の強化につながっている。

(富山県射水市商工会)

新たな取組みを図ることで景気対策を行う事業所が増えている傾向が見受けられる。特に、ネットの活用などが顕著に増加傾向であり、支援体制に関してもより専門的になってくることが予想される。

(静岡県天竜商工会)

国内景気は緩やかな回復を維持する一方、物価高や人手不足によるコスト上昇が中小企業の経営を圧迫している。円安は輸出関連には追い風となるが、輸入コスト増が内需型企業の収益を下押ししており、業種間の格差が拡大している。個人消費は賃上げの広がりを背景に持ち直しつつあるものの、実質所得の改善には時間を要する見通しである。今後は、生産性向上や省力化投資、地域資源を活かした高付加価値化が持続的成長の鍵となろう。

(広島県黒瀬商工会)

#### <悪化傾向を示すコメント>

コスト増に対するコメントが相変わらず多い。同業者の廃業に関する情報や仕事量の減少に関するコメントも増えてきており、体力のない事業所の淘汰が進んでいる印象。話としては、完全にダメになる前だが先行きの不透明性から廃業を選択しているようで、今後もこの傾向が増加するのではないかと感じている。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

業種問わず、原価上昇は続いており、価格転嫁が追い付いていないのは明白であることがわかる。最低賃金引き上げも実施されるため、事業者側の負担はさらに増える。また、当地域ではクマによる被害も増加しており、今後宿泊業者などへの影響も懸念される。

(秋田県かづの商工会)

依然として物価高騰の高止まりと、品目によっては更なる値上げが実行されるなど、経済環境・消費動向共に厳しい状況の月となった。また、全国各地で相次ぐ熊の出没及び人的被害の影響により、観光行楽シーズンの積極的な賑わい創出にストップがかかる状況となってしまった。観光関連業種においてもイベントの中止やキャンセルなどの深刻な影響が及んでいる。

(福島県会津美里町商工会)

全般的に物価高騰の影響は大きく受けており、一般客を相手にしている業種は、顧客の買い控えを感じている。

(埼玉県杉戸町商工会)

売上はあがるが利益が圧迫されるところが多くなってきているように感じる。

(和歌山県上富田町商工会)

原材料の値上がりが続いており、価格転嫁の調整や、値上げ交渉など生産活動以外の労力が増えている。税制改正や労働契約の変更など、非生産事務量が増えており、本業に費やす時間について悪影響が出ている。

(岡山県岡山北商工会)

最低賃金の引き上げが大きなトレンドとなった。本県においては66円引上の1,036円となり、内部留保の厚い事業所は積極的な助成金申請等を行い、設備投資を進めているように見受けられた。一方、経営基盤の脆弱な事業所は、採用マーケットからも徐々に遅れをとり、人出不足がより一層深刻化することが予想される。

(香川県さぬき市商工会 寒川支所)

事業主の高齢化と後継者不在による、地域における今後の廃業増の懸念有。行政と連携する等を図り、若手事業者や創業者の地域への呼び込み等も必要かと思われる。

(福岡県岡垣町商工会)

いずれの業種においても大きな価格転嫁が難しく、利益率は悪化傾向。冬場は暖房器具なども稼働していくため、電気代や灯油代などの支出も大きくなっていくことが見込まれる。

(熊本県水上村商工会)

## 2. 製造業

### <改善傾向を示すコメント>

食料品製造業においては、地域のイベントへの需要があり売上が増加した。

(宮城県遠田商工会)

当市において漁獲量の多い「カツオ」が、例年、東北沖に向かって遡上するが、本年は遡上しないで勝浦近海に滞留したため、小ぶりではあるが漁獲量が増えており、加工製造業者の業況も良くなっている。

(千葉県勝浦市商工会)

昨年同月と比較すると大きな変動はないが、賃上げが始まることや年末に向けた大手メーカーがセールを始める季節となることから、小規模事業者もアイデアで勝負していく必要を感じている。ホームページを最新にアップデートし、若者がみても見やすい構成にレイアウトを変更するなど時代に沿ったPR方法を模索し、検討している。

(三重県伊勢小俣町商工会)

繊維工業、機械金属製造業からは、受注が増加しているとコメントがあった。特に自動車部品を取り扱っている事業所では、アメリカの関税問題が一定結論がでたことから、受注が一気に増加したものの人材不足により売上拡大の機会を失っている状況となっている。

(京都府福知山市商工会)

機械金属製造関連業者は、これまで米国関税政策の影響により米国への輸出を行う機械製造業者との取引が一部停止しており、月額10万～20万の損失が出ていたが、10月期から取引を再開した。

(佐賀県唐津上場商工会 経営支援センター)

製茶業においては碾茶製造工場は抹茶輸出需要拡大、煎茶製造工場は商品不足による市場価格の高騰により非常に好況となっている。

(鹿児島県志布志市商工会)

### <悪化傾向を示すコメント>

機械部品製造業においては、コストの増加と売上の減少から周辺地域で廃業が増えており、事業承継も進んでいないことから、残存事業所への関東方面のブローカーからのアプローチが増えてきているとの事。

(宮城県栗原南部商工会 瀬峰支所)

食品製造業において材料仕入れの値上げについて価格転嫁を行い値段については現在落ち着いている。製本業については、価格交渉が行えない中で最低賃金が上昇するため赤字になってしまおうとのこと。

(埼玉県戸田市商工会)

人手不足やエネルギーコスト上昇が課題となる一方、自動化・DX化による生産効率向上や高付加価値製品への対策が求められている。

(山梨県昭和町商工会)

機械金属製造業の事業者は原材料費やエネルギーコストの高騰が続いており、収益を圧迫する要因となっており、さらなる価格転嫁の検討が不可欠な状況である。また、夜勤労働者の求人を募集しても問い合わせもなく困っている。

(静岡県函南町商工会)

原材料および資材の価格高騰が依然として続いており、仕入コストの上昇が収益を圧迫している。また、人材不足が深刻化しており、生産体制の維持や業務効率化に支障をきたしている。その結果、利益率は低下傾向にある。

(京都府長岡京市商工会)

食料品では原材料高の影響が大きく、チョコ価格高騰で製造停止例がみられる一方、抹茶ケーキは好調、10月はせんべい需要で繁忙である。もち米は倍近い上昇で調達難となり価格転嫁が必須である。繊維は忙化傾向。機械金属は人手不足と老朽設備が制約となり、受注を取り切れず業況はやや弱含みである。

(兵庫県丹波市商工会)

食料品は依然として原材料が上昇しているが、イベントの多い時期で天候にも恵まれ、売上は回復傾向となった。一部商品の値上げを実施した先もあるが、今のところ客足が減るなどの影響はない模様。繊維工業においては取引先(元請)の業況に左右される要素が大きく、取引先を多く持たない企業は今後の事業存続が危ぶまれる状況。機械・金属では受注が動かないため、企業全体の採算も資金繰りも好転しない。仕入単価においても依然として高止まり。生産性向上のための投資は現状では考えづらく、加えて賃上げが付きまとい経営不安が増している。

(鳥取県鳥取市西商工会)

設備の老朽化が進む中、物価高騰などの影響が重なり対応に苦慮している。

(島根県石中央商工会)

食料品製造業関連の事業者は、季節の変わり目のため、キノコの生育が少し遅くなり、需要に供給が追いつかない状況であった。建屋内は一定の温度に保っているが外気との寒暖差によりどうしても夏場より生産が遅くなる。繊維工業製造業関連の事業者は、全体的に9月と比較して大きな変動は見られなかった。機械金属製造業関連の事業者は、対前月比で売上は増加傾向。これから年末にかけて繁忙期を迎える。

(岡山県みまさか商工会 勝央支所)

自動車部品関連製造業は、全体的な受注減少で厳しい状況下にある。一方、半導体関連製造業においては、AI関連等半導体の活発な動きもみられる。製造業全般で見ればトントンといった印象も、米国関税や原材料・エネルギー価格の高騰が引き続きの課題となっている。

(香川県さぬき市商工会 寒川支所)

半導体関連の波及効果はあるが、設備投資意欲の鈍化と受注の遅れが目立つ。原材料高と人手不足が継続し、採算・資金繰りともに悪化傾向。

(熊本県大津町商工会)

### 3. 建設業

#### <改善傾向を示すコメント>

建築工事業においては、一般住宅の建築技術の他、宮大工の技術を活かし、工事単価の引き上げで、業況は回復傾向にある。屋根工事業においては、今後の事業拡大を見据えて、事務所の改修工事やホームページの作成を行う等、設備投資に取り組んでいる。

(茨城県取手市商工会)

引き続き好調で受注は増加傾向であるが、人手不足と原材料高で下請け企業ほど利益確保に苦慮している

(東京都小金井市商工会)

建設業界において、公共工事が増える時期でもあるため、同業間での情報交換において若干業況が改善していると聞くことが多い。

(神奈川県南足柄市商工会)

仕入単価上昇分は価格転嫁が行えており、採算はやや上昇。資金繰りも安定しており借入は不要。

(兵庫県新温泉町商工会)

公共工事の受注も多く、売上もやや増加傾向にある。仕入単価の上昇や、人員確保のための人件費負担増などもあるが、利益は確保できており、採算もやや好転状況にある。

(鹿児島県知名町商工会)

#### <悪化傾向を示すコメント>

左官業。昨年は単価の底上げと受注も多かったため売上増であったが、今年は価格がならされ受注も減り売上はかなり減少している。仕入単価も材料に運送費が上乘せられ跳ね上がり支払いに苦慮、資金繰りにも影響有り。

(秋田県由利本荘市商工会)

建設業物価高だけでなく、大手ハウスメーカーの台頭などがあり、売上が落ちている業者が増えており、仕入は上がっている為手元に資金が残らない現象が生じている。

(千葉県香取市商工会)

仕入価格が高騰し適正な価格転嫁が困難な中、従業員の賃上げにより経営状況に影響を与えている。

(東京都東大和市商工会)

公共工事は堅調であるが、一般住宅は価格高騰、実質賃金低下、金利上昇の影響が懸念されている。

(新潟県寺泊町商工会)

売上は前年同月比でやや減少し、仕入価格は依然として高止まり傾向にあることから、資金繰りも悪化傾向がみられる。9月期に続き、小規模(いわゆる一人親方)事業者からは、元請からの仕事が著しく減少しているとの声が多く寄せられており、廃業や転職を検討する事業者も見受けられる。物価高騰の影響により、いずれの建設会社も受注獲得のハードルが高く、受注を維持できている企業がある一方で、仕事量が減少し資金繰りが厳しい企業も存在する。人手不足と資材高の影響が重なり、採算確保が難しい状況が続いている。

(岐阜県中津川北商工会)

仕事の受注に関しては変化はほぼ無いが、物価高騰による仕入や諸経費支払費用の増加やインボイス導入後の外注費の増加等により収益が減少しています。収益の回復が今後の課題と考える。

(大阪府羽曳野市商工会)

資材・人件費の上昇と人手不足の影響が重く、見積額が高くなって受注に至らない案件が増えている。市内の受注機会は乏しく、手元資金の逼迫感もみられる。体力のある事業者は市外案件に向かう動きがあり、総じて採算・資金繰りは悪化方向である。

(兵庫県丹波市商工会)

建築関係は新築着工件数が下振れ。仕入、外注高騰し、利益圧迫につながっている事業所あり。販売額が高くなっており、ローンが組めない顧客も出ているとの声あり。

(鳥取県鳥取市西商工会)

■業界としての景況感は悪化している。公共工事の件数と金額が前期に比べ減少。民間の造成工事も、材料高や職人の人件費増などの影響により、新築物件の価格が高騰している為、受注件数が減っている。

■業界としては暗い雰囲気となっている。

■造園業：夏場は県道や市道の草刈り業務が忙しかったが、年末が近づいてきたため、庭の剪定依頼が増えており多忙。しかし、職人不足の影響がある。庭石を据え付けるなどの大掛かりな工事は無い。

(岡山県瀬戸内市商工会)

市況よりも人材不足が顕著。単純労働者は外国人実習生で対応可能であるが有資格者について若者の業界離れ、地方の過疎化等の影響により確保できていない。

(香川県三豊市商工会)

建設業関連業者は、仕入れ資材に加え人件費や外注費など各種経費も高騰しており、価格転嫁を実施した。しかしながら金融機関のローン査定も厳しくなっている影響により、高利益な新築工事の依頼も少ないため売上・利益・資金繰り共に低迷している。

(佐賀県唐津上場商工会 経営支援センター)

今月より賃金アップに取り組んだ。労務費部分については価格転嫁できていない。

(鹿児島県かのや市商工会)



## 4. 小売業

### <改善傾向を示すコメント>

秋の紅葉シーズンにより県内外のほか、インバウンドの訪問が増加。観光関連業種は昨年に引き続き好調である。

(秋田県仙北市商工会 田沢湖支所)

珈琲販売業:経営体制の見直しを図ることで、イートインからテイクアウトにシフトしていくようにしたい。従来のイートインは2号店で行うことで売上向上を図る。

(静岡県天竜商工会)

中古車販売業では、中古車需要の増加で売上は増加している。特にヴィンテージカーは仕入が2倍になっている。

(香川県高松市中央商工会)

衣料品小売業者、耐久消費財業者は、季節的な気温低下による厚手の衣料品、暖房機器の販売で売上高はやや増加している。

(長崎県新上五島町商工会)

原材料の高騰による影響は大きいですが、この風潮への理解が増し、落ち着きを見せており、以前のような危機感は少なくなっている。

(熊本県熊本市託麻商工会)

### <悪化傾向を示すコメント>

季節物の商品が売れている一方、仕入単価は依然として高止まりしている。

(宮城県遠田商工会)

一気に季節も移り変わり、朝晩冷え込む気候が急にやってきたこともあり、衣替えの商材はある程度動いているようである。その一方で、飲食料品については、10月から3,000品目以上の値上げが発生しており、更なる物価高騰の影響が消費者の家計を直撃し、買い控えの影響も見受けられる。

(福島県会津美里町商工会)

衣料品小売業においては、年々猛暑が続く、平均気温の上昇から秋物冬物の販売が激減している。昨年度在庫もあり、セール等に対応するも販売数は極めて少なく利益を圧迫している。耐久消費財小売業においては、エコキュート関連は補助金の効果から好況が続いているが、補助金が終了した後については大いに懸念している。また、資金繰りも安定はしているが、税負担についてはタイミングによって資金繰りを圧迫することがある。食料品小売業では多くの商品が値上げとなり、消費の冷え込みが著しく今後大いに懸念が残る。

(茨城県つくば市商工会)

衣料品小売業の事業者においては、被災者の支出優先は生活必需品や住宅修理費用となっており、食品以外の支出は抑えざるを得ない状況が続いており、売上は伸びなかった。

(石川県富来商工会)

日銀の金融緩和政策継続に端を発した円安により物価高、原材料高、燃料費高騰を招き、利益圧迫。一般消費者は部下高で生活が苦しく、財布の紐は固くて価格にシビアで、商品の価格転嫁ができない。従業員への給料アップの原資確保に苦慮。

(岐阜県海津市商工会)

食料品小売業事業者においては、長く続いた猛暑の影響により、秋物の青果の品ぞろえが悪く顧客ニーズに答えられず、商機を逸する状況である。

(愛知県飛島村商工会)

衣料は高温長期化で秋冬物の動きが鈍く、来客も弱い。食料品小売は売上は概ね不変だが仕入単価はやや上昇、人手不足感が残る一方、寒さ到来で在庫劣化の不安は後退した。耐久消費財は新車不足の影響もあり売上は増加するが、仕入上昇で採算は横ばいにとどまる。

(兵庫県丹波市商工会)

小売業としては、販売形態が変化(ネット等)しておりますので、個人の商店としては大手にかないません。消費動向も変化しておりますので、厳しい状況になっております。

(奈良県河合町商工会)

- ・衣料品:売上は横ばい傾向だが、物価高騰の背景から消費量は鈍化傾向。
- ・食料品:物価高騰の背景から、消費量は鈍化傾向。10月より最低賃金が1,030円へ引き上げられたことで人件費が上昇しており、今後も収益面では厳しい状況が想定される。
- ・耐久消費財:物価高騰の背景から、消費量は鈍化傾向。10月より最低賃金が1,030円へ引き上げられたことで人件費が上昇しており、今後も収益面では厳しい状況が想定される。

(鳥取県琴浦町商工会)

衣料品小売業関連の事業者は、8月に比べて売上は横ばい傾向である。売上の伸び悩みは法事等の行事の縮小が原因であり、今後も法事等のイベントの縮小は続くと考えている。食料品小売業関連の事業者は、大きな変化は見られなかったが、仕入単価上昇により、やや採算が悪化している。耐久消費財関連の事業者は、車両(中古、新車)販売は横ばい、車検、整備売上は減少していた。資金繰りは厳しい状況にあり、融資を検討している。

(岡山県みまさか商工会 勝央支所)

衣料品小売業は長引く猛暑が終わったと思ったら、冬物を求める気温になったため、秋物販売の機会がなく、売上の減少となった。耐久消費財小売業は年々売上が減少している。家電小売りにについては業界的に小売だけでは立ち行かないため、エコキュートやエアコンの取付工事などを行い利益につなげる店舗が増加している。

(長崎県対馬市商工会)

## 5. サービス業

### <改善傾向を示すコメント>

旅館：台湾のインバウンドは若干減少しているものの、国内ツアー客が増えたことや宴会目的のお客さまが増えている。しかしながら、設備の老朽化に伴う修繕費が絶えず発生していることが課題として挙がってきている。洗濯業：10月は、急に寒くなった影響で夏物を一度に出す動きと、出し忘れた冬物を慌てて出しに来る動きとで需要が多く、売上は増加した。仕入単価は依然上昇傾向。理・美容：売上は前年同月比で横ばい。10月は年末の散髪を見越して来客が増える傾向にあるが、それも例年通り。暖房をいれ始めて燃料費の高騰を感じるが、仕入や経費はあまりかからない業種のため、物価高騰の影響は少ない。

(秋田県由利本荘市商工会)

美容室においては、毎期の売上は安定している。SNSを利用した新規顧客の獲得に注力するなどしており、事業の拡大へ努めている。

(茨城県取手市商工会)

香取市においては、メディアにしばしば出る体験型宿泊施設が好調で、都内や近隣からの顧客で平日問わず賑わっている。

(千葉県香取市商工会)

旅館・宿泊は栗・黒豆の観光期入りで宿泊客が増え、売上・採算はやや好転している。洗濯業は全体として横ばいで、祭り衣類の取扱いが一部を下支えする一方、廃業も散見される。理美容は安定推移で、美容は口コミやネット予約の浸透により新規が増加している。

(兵庫県丹波市商工会)

宿泊関連事業者は中国電力発電所の定期点検実施に伴い、作業員の宿泊需要が増え一時的に売上増加傾向。

(島根県石中央商工会)

旅館業・飲食業の事業者は、長期に亘る猛暑もひと段落し、施設利用者及び周辺の観光地の人足はやや増加した。平日はインバウンド層やお遍路さんの利用、休日祝日は県内外や慶事での利用が中心となっている。

(香川県さぬき市商工会 寒川支所)

### <悪化傾向を示すコメント>

旅館宿泊所関連の事業者は、物価高騰の影響から仕入れ価格、エネルギーコストが上昇し採算に影響が見られる。

(北海道新ひだか町商工会)

秋の行楽シーズンから、例年観光地を中心に賑わいをみせる時期ではあるのだが、熊の出没が頻繁に発生しており、人的被害も連日のように発生していることから、秋のイベントが中止となったり、多方面で影響が及んでいる。本来、観光関連業種に関しては、観光シーズンが書き入れ時ではあるものの、今年は縮小傾向に転じているようである。

(福島県会津美里町商工会)

宿泊業では紅葉シーズンの遅れや社会問題となっている熊の出没などによる影響もあり観光客が伸び悩んでいる。また、物価上昇や人件費高騰などコスト上昇もあり採算性は悪化している。

(群馬県みなかみ町商工会)

物価高騰の影響から来店客数の減少傾向が続いている。(来店サイクルの長期化)

(埼玉県杉戸町商工会)

飲食業関連の事業者は食料品の仕入価格の上昇だけでなく、人件費、その他販管費の増加によって収益を上げることが難しくなっている。コロナ融資の返済原資や持続可能な運転資金を確保するため、今後のアクションプランや経営改善計画の策定支援に係る相談件数が増加している。

(新潟県新潟にしかん商工会)

洗濯サービス業関連の事業者は、夏から突然冬の変ったような気候の為、本来秋にある売上がないのと、夏にある売上が遅れている。

(石川県美川商工会)

売上は年々減少傾向にあり、厳しい経営環境が続いている。加えて、水道光熱費や消耗品価格の高騰が収益を圧迫しており、採算確保が難しい状況となっている。一方で、リピーター確保やサービス付加による差別化が今後の課題となっている。

(岐阜県大垣市商工会)

利用単価は上昇しているが、コストの上昇 来店頻度の減少や競合店舗の増加などが重なり、営業環境の改善・単価上昇だけでは収益の改善にはつなげていない。

(大阪府羽曳野市商工会)

宿泊業は近年になく減収減益。観光動態の変化と万博開催の影響と思われる。民宿においてはシーズンオフでも需要があるが、キャパオーバーで受け入れを断る状況。人流の活発化ではなく廃業に伴う民宿件数の減少が原因で、中心地へ購買行動が流れている。

(島根県まつえ北商工会 八束支所)

旅館・宿泊所関連の事業者は、秋の旅行需要によって売上は若干伸びているが、急な寒さのせいもあってか期待通りではない。また、仕入単価上昇のため採算性がやや悪化している。洗濯業関連の事業者は、地域の秋祭りのシーズンとなり、祭り関係の注文で非常に忙しい。最も忙しいのは、冬物が出てくる5.6.7月であるが、秋はピークが1ヶ月となるためそれほどではないが売上につながっている。理美容業関連の事業者は、前月と比較するとやや売上は増加傾向であった。前月より続けて情報発信しているSNSで集客につながっており、特に男性客が増加しているので継続した情報発信に努めたい。

(岡山県みまさか商工会 勝央支所)